

令和 7 年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I	法人総括	2
II	高齢者福祉事業	
	[1] やすらぎの家 関連事業	
	1 特別養護老人ホームやすらぎの家	6
	2 短期入所生活介護やすらぎの家	16
	3 グループホームほのぼのの家	18
	[2] うららか春陽荘 関連事業	
	1 特別養護老人ホームうららか春陽荘	21
	2 短期入所生活介護うららか春陽荘(ショートステイ)	28
	3 デイサービスセンターはるかぜ	29
	4 デイサービスセンターそよかぜ(認知症対応型)	30
	5 高齢者住宅等安心確保事業 横浜ニュータウン	32
	6 うららかキッズガーデン(事業所内小規模保育施設)	32
	[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業	
	1 デイサービスセンターくつろぎの家	34
	2 デイサービスセンターわかくさの家(認知症対応型)	35
	3 小規模多機能型居宅介護わかくさ	37
	4 くつろぎの家 訪問入浴サービス	40
	5 高知市在宅介護支援センターあさくら	41
	6 高知市朝倉地域包括支援センター	45
	7 生活援助員派遣事業 若草	46
III	児童福祉事業	
	[1] うららか保育園 関連事業	
	1 うららか保育園	49
	2 特別保育事業	52
	3 放課後児童クラブ	55
	4 職員研修参加状況	56
IV	介護福祉士養成事業(公益事業)	
	[1] 平成福祉専門学校 関連事業	
	1 平成福祉専門学校	59
	2 介護福祉士実務者研修	60
	3 高校生就職支援事業(初任者研修)	60

I 法人総括

① 事業拠点の安定した運営

介護事業においては、新型コロナウイルス感染症対応策を講じながら、ご家族との交流、地域との交流、施設の外へ出での活動を増やしてきた1年であった。ご利用者様の笑顔ややる気を増やすことにより、各拠点が活気のある空間と時間の提供が出来た。

稼働については、前年度よりも微増ではあるが、改善傾向であった。特に特別養護老人ホームうららか春陽荘の稼働率の増加と入院日数の減少は、昨対比で大きな改善となっている。ただ、新型コロナウイルス感染症のクラスターにより、特別養護老人ホームやすらぎの家、在宅介護センターわかくさでは、影響を受けた時期もあった。

うららか保育園では園児数の減少、平成福祉専門学校では令和8年度の入学者が10名と過去最低の入学者数となった。少子化の影響も考えられるが、それを見据えた対応に遅れが生じている。

法人全体として、社会福祉法人長い坂の会の周知と各拠点が必要に応じた広報活動を継続して行っていきたい。

令和7年度 活動実績

やすらぎの家拠点				
項目		本年度	前年度	増減
やすらぎの家 (106名)	稼働率	95.1%	94.4%	0.7%
	1日平均	100.8	100.1	0.7
	入院日数	1,505	1,666	-161
	空白日数	395	464	-69
	入所者数	40	36	4
	退所者数	36	37	-1
短期入所 (5名)	稼働率	75.8%	45.5%	30.3%
	1日平均	3.6	5.0	-1.4
ほのぼのの家 (9名)	稼働率	92.2%	96.7%	-4.5%
	1日平均	8.3	8.7	-0.4

※令和7年度、短期入所定員を11名から5名に変更

うららか春陽荘拠点				
項目		本年度	前年度	増減
うららか春陽荘 (80名)	稼働率	96.2%	92.5%	3.7%
	1日平均	76.9	74.0	2.9
	入院日数	921	1,616	-695
	空白日数	207	546	-339
	入所者数	29	43	-14
	退所者数	26	45	-19
短期入所 (10名)	稼働率	80.3%	44.0%	36.3%
	1日平均	8.0	8.8	-0.8
はるかぜ (25名)	稼働率	75.9%	73.8%	2.1
	1日平均	18.9	18.4	0.5
そよかぜ (12名)	稼働率	57.5%	60.0%	-2.5%
	1日平均	6.9	7.2	-0.3

※令和7年度、短期入所定員を20名から10名に変更

在宅介護センターわかくさ拠点

うららか保育園

項目		本年度	前年度	増減
くつろぎの家 (25名)	稼働率	75.5%	72.0%	3.5%
	1日平均	18.8	18.0	0.8
わかくさの家 (12名)	稼働率	69.1%	80.8%	-11.7%
	1日平均	8.2	9.7	-1.5
小多機わかくさ (29名)	稼働率	99.5%	99.3%	0.2
	1月平均	28.8	28.8	0
訪問入浴 (4名/日)	達成率	105.6%	107.5%	-1.9%
	1日平均	4.3	4.3	0
居宅あさくら (44名/人)	稼働率	99.5%	86.9%	12.6%
	1人あたり	43.8	38.3	5.5

項目		本年度	前年度	増減
保育園 (100名)	定員充足率	84.4%	75.8%	8.6%
	月平均	84.4	98.5	-14.1

※令和7年度、定員を130名から100名に変更

平成福祉専門学校				
項目		本年度	前年度	増減
介護福祉士養成 (30名)	定員充足率	33.4%	47.5%	-14.1%
	翌入学生	10	19	-9

※令和7年度、定員を40名から30名に変更

② 人材育成、確保

各拠点が内部研修・外部研修を通じて、継続した介護スキルの向上を目指すことが出来た。また、その中で新たに出てきた課題について、次年度以降に生かしていきたい。

人材の確保、特に介護職員の確保については、年間を通じて募集が少なく、苦しい時期もあったが、1月以降から介護職員を採用する事が出来たことにより、少し落ち着いた状況となった。また、採用した職員が友達や知り合いを誘っていただけるケースもあった。

令和7年度 入退職状況

	正規職員		契約職員		合計	
	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度
採用者数	17	29	13	2	30	31
本部	1	0	0	0	1	0
入所	10	17	4	2	14	19
在宅	6	11	1	0	7	11
保育	0	1	7	0	7	1
学校	0	0	1	0	1	0
退職者数	24	32	14	3	36	35
本部	1	0	0	0	1	0
入所	14	18	8	2	22	20
在宅	5	12	2	1	7	13
保育	2	2	3	0	5	2
学校	2	0	1	0	3	0

③ ICT への積極的な取り組み

高知県介護事業所デジタル化支援事業費補助金を使用し、特別養護老人ホームやすらぎの家、特別養護老人ホームうららか春陽荘に、ご利用者様の夜間の睡眠状態を確認出来る「眠りスキャン」を各 20 台導入し、それに伴う Wi-Fi 環境の整備を行った。次年度以降も補助金を活用し、職員の働き方の改善に取り組みたい。

④ 危機管理対策

継続して、危機管理の見直しと改善に取り組んだ。特別養護老人ホームうららか春陽荘では、8 年ぶりに春野地区の地域住民と地域の医療機関と合同の防災訓練を実施した。

(1) 令和 7 年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況

理事会

開催年月日	出席人数	決議事項
令和 7 年 6 月 4 日 (水)	理事 6 名 監事 2 名	第 1 号議案 令和 6 年度事業報告 (案) 及び決算報告 (案)、財産目録並びに監事監査報告について 第 2 号議案 評議員、理事及び監事の選任について 第 3 号議案 役職員変更について 第 4 号議案 定時評議員会の開催について
令和 7 年 6 月 20 日 (金)	理事 6 名 監事 2 名	第 1 号議案 理事長及び業務執行理事の選任について 第 2 号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第 3 号議案 役職員変更について
令和 7 年 9 月 17 日 (水)	理事 6 名 監事 2 名	【書面開催】 第 1 号議案 諸規程一部変更
令和 7 年 12 月 19 日 (金)	理事 6 名 監事 1 名	第 1 号議案 資金収支第 1 次補正予算 (案) 第 2 号議案 諸規程一部変更
令和 8 年 3 月 18 日 (水)	理事 6 名 監事 2 名	第 1 号議案 令和 7 年度 資金収支第二次補正予算 (案) 第 2 号議案 令和 8 年度 事業計画 (案) 第 3 号議案 令和 8 年度 資金収支当初予算 (案) 第 4 号議案 特別養護老人ホームうららか春陽荘施設長退任と就任について 第 5 号議案 うららかキッズガーデン閉園について 第 6 号議案 南ヶ丘放課後児童クラブ 土曜日の開所日変更について 第 7 号議案 諸規程一部変更

評議員会

開催年月日	出席者数	決議事項
令和 7 年 6 月 20 日（金）	評議員 7 名 監事 2 名	第 1 号議案 令和 6 年度事業報告（案）及び決算報告（案）並びに監事監査報告について 第 2 号議案 理事・監事候補の選任について

監事監査

開催年月日	出席者	報告事項
令和 6 年 5 月 22 日（木）	梅田昭彦 中村文雄	・ 事業報告等の監査結果 - 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 - 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実とは認められません。 ・ 計算関係書類及び財産目録の監査結果 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

評議員選任・解任委員会

開催年月日	委員	指導事項
令和 7 年 6 月 18 日（水）	高橋善則 島村長生 梅田昭彦 中村文雄 久保内大将	第 1 号議案 評議員の選任について

〔1〕 やすらぎの家 関連事業

総 括

令和 7 年度は、ご利用者一人ひとりがやすらぎの家での生活を通して「今日もいい一日だった」と思えることを基本方針に、職員同士が柔軟な思考で知恵を持ち寄り、出し合うことを重点目標に掲げ支援の提供に努めた。昨年度に続き、特養部門・グループホームと拠点全体で各種委員会の活動を通して職員一人ひとりが職責を持ち、介護職員を中心にご利用者の状況把握に努め、他職種一丸となり良いケア・サービスの向上に繋がるよう委員会活動の強化に取り組んだ。大きな違いは出ていないが、各介護グループリーダーが中心となり良いチーム作りをしようとする姿勢に職員が賛同し良い組織づくりを形成しつつあると実感している。しかし、ケアの提供が事務的な支援になっている部分もあり、介護事故等での検証の際にそれが施設風土化している現状も見受けられ、コロナ禍以降の隔離した環境での支援継続も大いに影響していると思われ、特養・グループホーム共に原因究明に早急に取り組む必要がある。

稼働に関しては、特養部門は例年春先・夏の終わりに体調不良者が多く、入院者数・日数が増える傾向がある。入退所者数も 40 名前後と依然多いため、次年度同じ傾向にならないよう原因究明し改善に取り組む。ショート部門は、平均 1 日 3.6 名と目標数に届かなかったため、次年度は空床ベッドを有効活用し稼働アップを目指したい。感染状況は昨年度より少なく、感染症発生時でも支援を止めず、希望を聞き支援継続が出来たことは次年度に繋がる取り組みとなった。グループホームは今年度も入退所 4 名あり入れ替わりが多かった。今年度も比較的自立度が高いご利用者が入所し、少人数での外出支援も積極的に実施した。また、今年は感染症発生ゼロで職員の感染症対策に対する意識向上も結果につながった。

特養部門の感染対策に関しては、コロナウイルス感染症は 4 月・9 月にクラスターとなったが重度化することなく短期間での終息となった。しかし、8 月に 1 号館 1 階・2 階共にインフルエンザが蔓延しご利用者 25 名、職員 8 名のクラスターとなり感染力の強さを実感した。1 名の方が医療機関に入院となった。このクラスターでの反省を下に医療職を中心に感染研修・机上訓練等を強化し、早期に対応し動けるよう職員に意識づけを行った。

地域交流等に関しては、防災委員が積極的に地域での研修や打合わせに参加し、今後想定される有事に備え、良い関係づくりの一步が進めた。今後も情報共有しながら自主防災にも力をいれ、特養・グループホーム共に大規模災害への備えをしていく。

1 特別養護老人ホームやすらぎの家

(1) 介護部門

感染対策については、職員が自分達で考え行動できるように会や研修を行い意識を高めてきた。委員会からの発信もあり、定着してきており適切な対応ができています。

環境美化の日常化と接遇に関して毎月の部署会等で周知するも、職員各々の意識の違いがあり課題となっている。ご利用者やご家族の思いに寄り添えるよう意識づけしていく必要がある。

内部研修では、今までとやり方を変え「見る・聞く」だけの研修から、自分達で考え行動する方法を取り入れ、自分達で取り組んだ事例内容を発表する研修を行った。

現場で起こる可能性の高い事案を体験することで今後の業務に活かしていける研修になったのではないかと。今後も、課題に沿った研修を行っていく。

重大事故に関しては年間 14 件（誤薬 3 件、骨折 3 件、外傷 8 件）発生した。自発的な動きがあるご利用者の事故を完全に防ぐことはできないが、ご利用者の状態を把握しリスク軽減に努める必要がある。検討会や部署会にて、日頃からの記録の必要性について周知を行った。誤薬 3 件に関しては、マニュアルの基本である服薬者が声出し確認を行い服薬介助をする事が遵守できておらず発生しており、他職員も注意できていなかった。誤薬を防ぐためにどうするか検討会を行い、服薬者だけに任せるのではなくその場にいる職員も注視する必要があることを周知した。

虐待には至らなかったが、不適切なケアが 1 件発生した。自発的な動きにより転倒したご利用者に対し転倒後の職員の対応が適切ではなかったため、聞き取り・検討会を実施。グループ職員の聞き取りにて、普段の対応から課題を感じていた職員が多かったが問題視せず対応していた。検討会にて、対応は適切とは言えないがいつか起こりうる状況下での支援をグループ全体で実行していたことを施設全体の問題とし、事実をご家族に説明・謝罪し不切なケアで公表した。今後はグループ職員だけで対応するのではなく、課題を挙げ他部署とも連携し施設全体として取り組んでいく必要がある。また徐々に ICT の導入もあり、働きやすい職場作りに努めていく。

(1 号館)

全体的に上半期に、ご利用者の入退所が多く続いたが他部署と連携をとり情報を共有し適宜対応できた。ご家族からご意見をいただくこともあったが、4S に対しての意識は高く持っている。1 階・2 階ともに感染対応する期間があった。課題がないわけではないが、感染が発生した時に他部署の応援がなくても、職員が自発的に感染対策の準備ができるようになった。感染を完全に防ぐことは難しいが、今後は予防対策を考え実行していく。また部署会や検討会で職員からの発信・発言は以前より見られだし、意見交換できていた。

(2 号館)

ご利用者の入退所が下半期に多く続いたが他部署と連携をとり情報を共有し適宜対応できた。4S については、職員各々の意識の違いがありまだまだの状態である。

ノーリフについては浸透しており、ご利用者や職員の負担軽減にも繋がっている。

年間を通して職員不足を補えず、時間外勤務も常に発生した。徐々にではあるが職員も増えており早急に働きやすい環境に整えていく。

2 階グループで不適切なケアが 1 件発生した。グループ内だけで共有するのではなく、他部署とも連携しご利用者のケアにあたる。

(2) 生活相談員部門

今年度も感染症対策を継続していたため、家族会などの交流行事等実現することはできなかったが、一方で朝倉防災フェスタや高知大学で行われた地域の避難訓練や地域の小学校のボランティア活動、夏祭りに参加し、昨年以上に地域と交流することができた。入所希望者や待機者に対しては迅速に直接待機場所を訪問し状態確認等を行ない、スムーズな入所に繋げることができた。また退所が見込まれるご利用者については他事業所へ綿密に連絡を取り合うことで、ご家族の意向に沿った形での退所に繋げることができた。

(3) 介護支援専門員

自分で動くことができないご利用者に対しては、寝たきりにならないように、寝食分離を基本とし食事以外にも少しでも離床して過ごせるようにプランに入れ取り組んだ。経管栄養の方には、外の景色が見える席で過ごしてもらう・リハビリを兼ねてグループの外に出る・話しかけ等コミュニケーションをとり、食べることで以外で楽しみが持てるように努めた。状態変化、皮膚トラブル、食事検討など、多職種と情報共有して連携に努めた。今後は体調不良や皮膚トラブルの予防ができるように小さな気づきを大切に、連携をより強めていきたい。

ご家族とのかかわりでは、ご利用者の日々の様子が分かるように努めた。担当者会の報告以外でも、面会に来られた際に直接様子を伝える、その他の電話連絡があった際に様子を伝えるなど信頼関係に努めた。今後はサービス担当者会にご家族もできる限り参加していただけるように働きかけていく。

(4) 給食部門

①給食運営とサービス向上

「食と栄養がご利用者の楽しみや生きがいとなる生活支援」を目標に、委託業者との連携強化および多職種参加の給食部会を毎月実施した。これにより、調理方法や献立の継続的な見直し・改善を行っている。2月の嗜好調査では、味付けについて70%のご利用者が「良い」と回答されており、満足度の向上が確認できた。一方で、残食量は前年度比104%と微増している。今後は提供量や献立バランスを再検討し、満足度の維持と残食量減少の両立に取り組んでいく。

②行事食と防災対策

季節感や日常の楽しみを提供するため、年中行事や祝日に合わせた行事食、旬の食材を用いた献立を企画・実施した。また、防災面ではローリングストックによる備蓄食の確保を継続している。

③栄養管理と今後の課題

栄養アセスメントを通じた健康維持およびQOL向上に努めたが、今年度は低栄養リスク者に褥瘡が多数発生するという課題が残った。今後はアセスメントの結果をいかに問題発生の予防に繋げていくかを重視し、体制の構築を図っていく。

【イベント食】

4月	季節の献立（春の食材を使った献立）
5月	憲法記念日、子供の日、母の日
6月	父の日、開園記念日、世界のメニュー（アクアパッツァ）
7月	七夕、海の日、土用の丑の日（かば焼き実演）
8月	山の日
9月	敬老の日、秋分の日
10月	スポーツの日
11月	文化の日、勤労感謝の日
12月	クリスマス、冬至、大晦日
1月	正月料理、鏡開き、成人の日
2月	節分、建国記念日、天皇誕生日
3月	ひな祭り、春分の日

- ・ R7年4月～R8年3月 給食部会（毎月実施）参加職種：CW、CM、NS、相談員、PT
- ・ R8年2月1日～6日 嗜好調査実施（聞き取り方式）

(5) 機能訓練部門

- ①生活リハビリに関してはご利用者の状態をヒアリングしながら、変更が必要な場合は随時変更を行った。ただし介護職員に対する意識づけは不十分であり、特に歩行練習に関しては十分に行えていない様子がみられた。日々のケアの中で取り組みやすい方法を介護職員と相談しながら、生活リハビリに対する意識を向上させていきたい。
- ②福祉用具については、必要に応じて選定を行い積極的に使用できた。介護職員からも福祉用具を導入したいという声も聞かれるようになっており、ノーリフトケアについての意識が向上しているといえる。また、使用が定着するように使用状況を適宜確認しながら、必要に応じて介助方法の伝達も直接行った。ただし、研修に関してはスライディングボードの使用に対する研修は行ったが、回数としては少なく研修方法も含め今後の課題である。介護職員が主体となって動けるような研修も行っていきたい。

(6) 医務部門

①職員・ご利用者の健康管理について

令和7年度入院は87件(令和6年度86件)(入院後退所した利用者:36名(令和6年度25名)そのうち死亡退所:5名(令和6年度8名)。多職種との連携に努め、早期に協力医療機関への受診を行った。入院件数は前年度86件でほぼ同数。入院後退所者は増加しているが死亡退所者は減少している。入院後死亡退所者は減少。職員の健康診断結果では、4名の職員に指導を行った。

②感染予防について

感染症の動向確認に努め感染委員長を中心とし感染症発生時は適切な現場支持・啓発対応を多職種と連携を図りながら行った。単発でのコロナ感染・インフルエンザ感染は発生したがグループ全体に広がる前に終息することができた。外部研修「ノロウイルス発生時の対応・感染症のアウトブレイク時の対応」への参加も行い知識の向上に努めた。

③災害時の対応について

地域の医療参加要望に応え医務部門も朝倉防災フェスタへの参加予定であったが、急患対応のため参加ができなかった。防災フェスタへの参加検討時、医務部門として地域に貢献できる内容を検討する事で止血法や災害時における応急処置法など災害時の対応を考える機会となった。今後も予想される大規模災害などの有事に活かすことのできる災害時の対応・感染対策の研鑽が必要。

(7) 事務部門

施設の窓口として接遇に十分配慮し、「明るく、親切、丁寧、迅速」に対応できた。

- ①管内照明(蛍光灯)のLED化に着手した。次年度は全館LED照明に切替え予定。
- ②他部門との情報共有および協力体制は維持できた。
- ③防災委員会再編により、新たな取り組みを開始することができた。

(8) 各種委員会

身体拘束廃止・虐待防止委員会

定例会、総会は年間を通して4回の開催を行った。定例会では、各グループの取り組みの報告と課題について検討し、内部研修の内容について話し合いを行った。総会では、取り組み内容の報告と評価を行った。各グループともに毎月の部署会で「良いケアの取り組み書」「虐待リスク検討シート」を活用し課題に対しての取り組みや評価を行う事で、ご利用者のケアの見直しを行った。定例会の中でグループの課題について話し合いを行い、内部研修の内容を決め委員を中心に取り組みを行い事例発表を行った。

虐待には至らなかったが不適切なケアが1件発生した。要綱に基づき検討会を開催し対応を決定した。不適切なケアに対する研修を行い、職員に周知した。

ご利用者の思いに寄り添い、一人ひとりに合わせたケアを実施していく必要がある。

事故防止委員会

- ①令和7年度に発生した重大事故の件数は14件だった。その内誤薬は3件であり、前年度の誤薬事故の件数と比べると半減したが、裂傷が7件と多かった。自発的な動きのある方の転倒事故が主だった。介護・看護・PTなど専門職と共にその人の身体機能に応じた介助方法を検討し再発防止に努めた。
- ②前年度よりヒヤリハットの書式を簡素化し、気づきを発信・共有しやすくなったとの評価があった。また、期間内に起きた事故をグループ会で振り返ることも定着している。今後も継続していくことで事故防止に努めていきたい。
- ③記録については内容に個人差が大きいため、一定の内容が記録できるように委員から発信できるようにしていく。

感染予防委員会

尿路感染・蜂窩織炎の入院「0」にはならなかった。尿路感染症は増加傾向。陰部洗浄等日頃のケア等十分行えているか、見直しが必要。

- ①水分摂取への取り組みは工夫して行っているが、陰部洗浄の必要性や方法が理解できていない職員もあり、全体的に実践が不十分になってきていると感じる。皮膚の観察等は、それぞれのグループの努力で早目に異常に気づき、早期対応できたと思う。
- ②研修や訓練を通して職員全体の理解を深める事ができた。食事前の利用者への手指消毒に取組み始めた。業務に流されまだ不十分な点はあるが感染予防の一部として意識付しつつあると思われる。
- ③コロナ発生時には介護グループ職員が主体的に動く事ができ、感染対策の必要性の理解を深め、情報共有もできた。
- ④全体的に4つのグループともに口腔ケアが十分できていない。正しい口腔ケアの方法を周知・習得が不十分も考えられ、次年度は職員研修に取り入れ実施していきたい。

褥瘡予防委員会

今年度は、予防と早期対応を目的に、委員を中心とした多職種連携強化の取り組みを行った。年 2 回の定例会と総会、さらに毎月の介護グループ会を通じて、食事・水分摂取不足や体重変化、OH スケールによるリスク者の情報共有を行い、ご利用者の状態把握に努めた。

今年度の発生状況は以下の通りである。

- ・剥離発生件数：9 件（過去 4 年平均：6.7 件）
- ・褥瘡発生件数：13 件（過去 4 年平均：6.5 件）

いずれも過去の平均を上回る結果となった。

増加の要因としては、清拭時の摩擦や座位時の圧迫への対応、不穏状態の方への関わり不足、低栄養リスク者の情報共有や体位変換などの予防策に関する発信不足が挙げられる。また、利用者の重度化や、褥瘡既往のある入所者の増加、往診スピード向上による早期発見・計上も影響していると考えられる。

一方で、日常的な皮膚状態の観察や早期発見、マットレス調整による予防意識の向上など、情報共有の体制は着実に構築されている。往診までの迅速化により治癒日数が短縮されたほか、発生後の多職種による検討・実施が早期治癒に繋がるなどの成果も見られた。次年度は、こうした体制や意識を施設全体に浸透させ、さらなる予防と早期治癒に向けた取り組みを推進していきたい。

【やすらぎの家 内部研修参加状況】

月 日	研修名	研修場所
4/3	訓示・事業計画 施設長より	くつろぎホール
6/11. 12	感染予防委員会① 食中毒について	くつろぎホール
9/10. 11	事故防止員会① 実際の事例をもとに重大事故発生後の対応を知る	くつろぎホール
9/17. 18	身体拘束廃止委員会①高齢者虐待防止委員会① 基本の振り返り	くつろぎホール
12/9. 10	感染予防委員会② 感染経路別予防策、手指衛生	くつろぎホール
1/27. 28	身体拘束廃止委員会② 事例発表 高齢者虐待防止委員会② 認知症ケア	くつろぎホール
1/29	感染・防災合同研修（出前講座） 講師：高知市健康増進課 そなえて安心！災害時の食と口腔ケア	くつろぎホール
2/13	周知研修 不適切ケアの発生について 職員へ説明会	くつろぎホール
2/17. 18	感染予防委員会④（机上訓練含む）	くつろぎホール

	もしグループ利用者にコロナ陽性者が出たら	
2/24. 25	事故防止員会② 事故の例題をもとに動きを考える	くつろぎホール
3/19	身体拘束廃止・虐待防止委員会② 虐待・不適切なケア研修	くつろぎホール

【やすらぎの家 外部研修参加状況】

月	研修名	参加人数
4/11	令和7年度高知県 福祉・介護職員合同入職式	3名
4/22	大王製紙主催 アテントマイスター研修	5名
4月中	認知症介護基礎研修（eラーニング）	1名
6/10	高知県食と栄養の会「災害時の食事を考える」	2名
6/12	育児・介護休業法のポイント（オンライン）	1名
6/19. 20	介護福祉士実習指導者講習会	2名
6/25	Z世代の育て方（オンライン）	2名
7/10	納税事務研修会	1名
7/17. 18	介護福祉士実習指導者講習会	2名
7/18	記録の書き方研修（オンライン）	2名
8/2	介護職員が知っておきたいハラスメントについて	1名
8/4	ティーチング研修～人材育成に困っているあなたへ～	3名
8/5	介護労働者の雇用管理対策研修会（オンライン）	1名
8/6	失敗しない ICT 機器の選び方・活かし方実践セミナー	2名
8/16～31	介護支援専門員更新研修	1名
8/21. 22	第72回 四国老人福祉施設関係者研究大会 香川県	2名
9/3～5. 18	認知症介護実践者研修	2名
9/10	認定調査員新規研修会セミナー	2名
9/13	日本高齢者虐待防止学会 高知大会	1名
10/9	リスクマネジメント研修会	1名
10/17	急変への気づきと対応	3名
10/20	接遇研修	2名
10/21	後期研修会（朝倉病院）	3名
10/29	ノーリフティングケア実技研修会	2名
〃	アドバンス・ケア・プランニング研修会（朝倉病院）	2名
11/6	認知症介護実践者研修	2名
12/5	中央Bブロック栄養士勉強会	1名
〃	備蓄と支援体制の現状・課題・対策について	1名

12/11	栄養士目線での食事形態	1名
12/15	高知県 福祉・介護新任職員フォローアップ研修	2名
1/22. 23	老施協セミナー	2名
1/29	ノロウィルス発生時の対応、感染症のアウトブレイク時の対応	2名
2/9	大王製紙主催 アテントマイスター研修	4名
2/18	医療・福祉介護 DX DX 生産性向上支援へのお役立ち	3名
2/25	食と栄養の会 第4回研修 褥瘡	3名

【令和7年度 やすらぎの家 入所者状況（やすらぎの家 ご利用者状況）】

市町村	高知市	土佐市	香南市	いの町	本山町	香美市	須崎市		計
男性	21	1	0	0	0	1	1		24
女性	74	4	1	1	1	0			81
計	95	5	1	1	1	1	1		105

＊令和7年度3月31日現在

【年齢別人員】

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～	合計	最高	平均
男	0	3	12	7	1	25	99	80.9
女	0	4	34	29	14	79	105	86.1

＊令和7年度3月31日現在

【入退所状況】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	1	2	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1
	女	3	2	3	3	2	2	1	2	1	3	3	3
	計	4	4	3	4	2	3	2	3	1	4	4	4
退所者	男	0	2	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
	女	4	2	0	3	3	3	0	1	1	4	2	4
	計	4	4	1	3	4	3	1	2	2	5	3	5
月末人員	男	25	26	26	25	24	25	24	23	22	24	24	24
	女	79	78	79	80	80	78	81	83	83	81	82	81
	計	104	104	105	105	104	104	105	106	105	105	106	105

【サービス利用状況】

		要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4 月	延べ	0	0	660	1710	750
	実利用	0	0	22	57	25
5 月	延べ	0	0	744	1705	775
	実利用	0	0	24	55	25
6 月	延べ	0	0	750	1650	750
	実利用	0	0	25	55	25
7 月	延べ	0	0	775	1705	775
	実利用	0	0	25	55	25
8 月	延べ	0	0	744	1736	744
	実利用	0	0	24	56	24
9 月	延べ	0	0	720	1680	720
	実利用	0	0	24	56	24
10 月	延べ	0	0	744	1736	744
	実利用	0	0	24	56	24
11 月	延べ	0	0	690	1710	780
	実利用	0	0	23	57	26
12 月	延べ	0	0	713	1767	775
	実利用	0	0	23	57	25
1 月	延べ	0	0	713	1798	744
	実利用	0	0	23	58	24
2 月	延べ	0	0	644	1708	616
	実利用	0	0	23	61	22
3 月	延べ	0	0	744	1829	682
	実利用	0	0	24	59	22

【令和 7 年度 年間行事】

月 日	行 事 名
7/23	2 号館夏祭り
7/31	ウナギのかば焼き
9/11	敬老会
10/2	1 号夏祭り
10/17	慰霊祭
10/29	カツオのたたき

11/9	朝倉防災フェスタ
11/10～12	コスモス見学
12/22	1号館クリスマス会
12/25	2号館クリスマス会
12/26	餅つき
1/6～7	初詣
2/3	皿鉢の日
3/3	ひな祭り&喫茶

【苦情報告】2件

本年度、ご家族様からの苦情を2件受付けた。

- ・面会時の環境整備不良について
- ・衣類汚染、爪切り、車いす汚染等の整容面について

上記内容に関しては、速やかに苦情検討委員会を開催し、今後の改善策含めご家族に謝罪と説明を行い、第三者委員への報告と施設内の掲示板にて情報開示した。

上記ご意見を真摯に受け止め、施設サービスの改善・向上につながるよう施設全体で取り組んでいく。

2 短期入所生活介護（ショートステイ）

令和7年度はショート利用枠5名での稼働を行った。感染対策を意識しながら受け入れを行っていたが今年度も受け入れ先のグループで感染症（インフルエンザ・コロナウイルス共に）が蔓延した。感染経路が外部なのかは不明ではあるが、在宅生活の方を受入れするリスクは常にあるため、今後も受入れ時には家族等と体調等の情報交換を行いながら調整を行っていききたい。また今年度は感染が発症した場合でも、稼働全面中止にせず施設内で感染リスク検討を行い、利用についてはご家族と相談したうえで受入れ態勢を整えた。

また今年度はショートステイ定期ご利用者から、特養やすらぎの家への入所に繋がる事が複数できた。その半面、ショートステイ利用の稼働が下がったが、空床ショートステイを活用し、単発的な利用ではあるがご家族からの依頼にもこたえる事ができ、稼働率上昇にも反映できた。しかし、空床ショートステイの利用調整は入退院での調整であるため、稼働に反映する調整は今後の課題にもなっている。

【令和 7 年度 やすらぎの家（短期入所）サービス利用状況（介護保険請求者数による）】

		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	述べ			16	10	22	54	23	125
	実利用			2	2	4	8	4	20
5 月	述べ			11	2	46	54	22	135
	実利用			3	1	4	7	4	19
6 月	述べ			18	2	22	56	22	120
	実利用			3	1	2	8	4	18
7 月	述べ			5	14	27	56	30	132
	実利用			1	2	3	9	3	18
8 月	述べ			15	24	17	30	28	114
	実利用			2	3	3	4	3	15
9 月	述べ			15	12	8	42	52	129
	実利用			1	2	1	7	4	15
10 月	述べ			9	15	16	64	39	143
	実利用			1	3	2	6	2	14
11 月	述べ			2	7	24	44	33	110
	実利用			1	2	2	6	2	13
12 月	述べ			2	10	16	27	28	83
	実利用			1	2	2	5	3	13
1 月	述べ			28	4	21	43	22	118
	実利用			2	1	2	6	2	13
2 月	述べ			12	10	25	30	20	97
	実利用			1	2	2	3	1	9
3 月	述べ			0	5	13	21	25	64
	実利用			0	2	2	4	2	10
合計	述べ	0	0	133	115	257	521	344	1370
	実利用	0	0	18	23	29	73	34	177

3 グループホームほのぼのの家

- ①要望に合わせて外出計画を立て、ほぼ毎月の外出をすることができた。紅葉や、海、桜などを見に出かけ、外気に触れて季節を感じていただけた。好きなメニューを聞き取り献立に取り入れることや外食に行くことで食に対して、満足していただくことができた。
- ②朝倉さわやかクリニック他医療サービスとの連携を図り、ご利用者の状態変化がある時は報告、相談をし、早期受診を行う事が出来た。また朝倉病院外来リハビリを活用し機能訓練で身体機能の維持向上を図ることができた。又、感染予防に努め、集団感染発生はなかった。
- ③家族、地域への開かれた家造りを目指し、ブログ作成、電話対応、面会時には近況報告して、安心してもらうよう努めた。居室内での面会が再開され、利用者、ご家族ともに喜びの声聞かれた。運営推進会議での家族、外部の方の意見を聞くことで、知識が深まった。又、清掃に参加し地域の方々と交流することができた。
- ④防災については防災アプリを活用し、液状化や、浸水、倒壊のリスクを確認し、想定したうえで参集机上訓練をすることができた。災害時の備品に必要性や保管場所を全職員で確認し必要なものは購入した。また、災害時の食についての研修を受け、実際に炊き出し訓練を行うことができた。
- ⑤各委員会が率先して取り組みや研修を開催することができた。やすらぎの家の看護師に協力してもらうことで、感染予防の研修や訓練を実施することができた。認知症実践者研修を職員1名受け認知症への知識、理解を深めることができた。

(1) 利用状況

介護状態	
要介護1	0名
要介護2	5名
要介護3	4名
要介護4	0名
要介護5	0名

年齢別人数	
80-85歳	0名
86-90歳	4名
91-95歳	3名
96-100歳	2名
101歳以上	0名

入居前状況	
自宅	7名
施設	2名
病院	0名

日常生活自立度	
A1	2名
A2	6名
B2	1名

認知症の程度	
Ⅲa	9名
Ⅱb	0名
その他	0名

【日常生活動作状況】

	歩行	食事	入浴	着脱	排泄
自力	4名	9名		4名	5名
一部	3名		6名	5名	4名
車椅子	2名				
全介助			3名		

(2) 入退所者・入退者状況

	入所者	退所者	入院者	退院者
4月			1名	
5月	1名	1名	1名	
6月	1名	1名	1名	
7月			1名	1名
8月		1名		
9月	1名			
10月				
11月				
12月			1名	
1月			1名	
2月	1名	1名		1名
3月				

(3) 活動状況

	活 動 名	人数
4月	外食ドライブ（寿司一貫）	3名
5月	買い物（しまむら） 運営推進会議	2名
6月	紫陽花見学・外食（野市）	2名
7月	a i c o ツアー（靴購入） 運営推進会議、誕生会	2名
8月	ほのぼの夏祭り	9名
9月	敬老会（歳祝い3名）	9名
10月	運動会 カツオのタタキ実演見学	9名 9名

11 月	ドライブ（日高村 小村神社・大イ チョウの木） 運営推進会議	9 名
12 月	クリスマス会 忘年会	9 名
1 月	初詣（いのち本神社） 運営推進会議、誕生会	2 名
2 月	節分祭・ドライブ（花街道）・外食 誕生会	7 名 2 名 2 名
3 月	雛祭り・花見 運営推進会議、誕生会	9 名

(4) 内部研修

研修内容	開催日	場所	参加者
防災研修（防災アプリ）	9/10	ほのぼのの家	全職員
身体拘束・虐待防止委員会	10/8	オンライン	全職員
標準予防策	10/8	オンライン	全職員
不適切ケア	1/14	オンライン	全職員
高齢者虐待防止について	1/27. 28	やすらぎの家	全職員
身体拘束廃止について	1/27. 28	やすらぎの家	全職員
災害時の食と口腔ケア	1/29	やすらぎの家	全職員
食中毒予防	2/12	机上	全職員
緊急時対応（心肺停止・転倒 事故）	2/24. 25	やすらぎの家	4 名

(5) 外部研修

研修内容	開催日	開催者	場所	参加者
介護職員が知っておきたいハラスメント	8/2	高知県介護福祉士会	高知県立ふくし交流プラザ	1 名
認知症実践者研修	9/3～5 9/18 11/16	高知県社会福祉協議会	高知県立ふくし交流プラザ	1 名

〔2〕うららか春陽荘 関連事業

〔総括〕

令和7年度は、「我が家と変わらぬ住まいの実現」と「その人らしい暮らしの継続」を目標に取り組み、多職種チームで目標を共有、ご利用者が幸せと感じ笑顔となるよう様々な取り組みと支援を行った1年であった。

経営面、稼働について特養は安定した運営を目指し、空床や長期入院とならないよう、円滑な入退居を協力医療機関と密に連携することで実現できた。また、入院者を出さないよう、ご利用者の健康状態の維持を図るため医務室・栄養課・介護部門が連携協働し、入院者の減少に繋げることができた。

在宅事業のデイサービス、ショートステイについてはこれまで以上に稼働率向上を目指し、ご利用者の満足度向上に取り組み、ブログ等での広報活動を行い営業活動に注力し、稼働率向上が必要である。

運営面では、採用者、在職者離職防止のため、定期の面談を行い相談しやすい環境づくりを介護主任中心に行った。また、外部研修へ参加することにより新たな刺激・学びとなり、外部との意見交換の場に繋がった。

1 特別養護老人ホームうららか春陽荘

（1）介護部門

①ご利用者の方々が自分の住まいと思えるような環境を作る

住まいと思えるように生活習慣や本人の思いを日々の暮らしの中から傾聴し、個々の暮らしの継続を大切にしながら支援を行った。外出支援も家族・多職種の協力のもと実現でき、行事等もユニットの垣根を超え共に行う事により他者との交流も増えた。心身の状況変化時は多職種へ報告し対応行う事で落ち着いた生活が継続できた。

②今までの暮らしを続けてもらえるような暮らしをつくる。

ご利用者がこれまでの生活を継続できるように、移動販売・移動美容室等の定期的な訪問により、自身で選び、楽しみながら食と向き合い、身だしなみも整えられ日常生活の機会を施設内で確保する取り組みを継続して行った。

③24時間の暮らしを支える仕組みをつくる

ご利用者一人ひとりの生活リズムに合わせ切れ目のない支援を行う事に取り組んだ。日中・夜間を通じた支援、生活を見守る事を行ったが、夜間帯に関しては入居者の心身状態に変化が見られた際に共通認識の共有が課題となる場面があった。24時間シート（入居者個々の生活リズム）の作成完成には至っていないも、取り組みが形になってきているユニットもある。

(2) 生活相談員部門

重点目標にある、ご家族、行政や外部関係者との「橋渡し役」としての取組みについては、主に介護支援専門員と連携し対応を行った。

①入居希望者に対する丁寧な説明

入居に対する問い合わせ等には丁寧にお答えし、相談相手がイメージできるよう当施設の特徴を伝え、施設見学にも来ていただいた。

②入退院の調整

入院時はご家族への連絡等を丁寧に行うことを心掛け、入院後は病院と密に連絡を取り、入院者の状態、経過等の情報をご家族と共有した。その為、退院の日程調整等、スムーズにできた。また、長期の入院が必要とされた場合はご利用者本人や家族の気持ちに寄り添いながら、医療機関と連携し、再入居についての説明を丁寧に行った。

③地域交流、苦情等への対応について

地域活動としては、「西分地区防災合同避難訓練」「ボランティア受け入れ」といった今まで開催できなかったイベントが出来たことで、閉鎖的であったイメージから一転、顔と顔のつながりへの一歩が踏み出せた。また、週2回の移動スーパー利用は地域の方とのコミュニケーションにもつながっている。

ご家族様からの意見・苦情についても真摯に受け止め対応していく姿勢で、日頃から些細な事でも相談していただけるよう、面会時や、電話での会話を大切に丁寧に対応した。

(3) 介護支援専門員

1. 総評

入居者および家族の心身状況やニーズを的確にアセスメントし、個々の要望に沿ったケアプランを作成した。本人及び家族との密なコミュニケーションを心がけ、相談に迅速かつ丁寧に対応することで、より良い信頼関係の構築に努めた。

2. 重点実施事項の取組と成果

①適切なアセスメントの実施

調査段階から積極的に入居申込者の面接及び入居時健診に同行し生活歴や要望等の把握に努めた。入居者本人の心身の状況と家族の環境を多角的に分析し、真に必要とされるケアを導き出すアセスメントを実践した。

②入居者・家族主体のサービス担当者会議の実現

サービス担当者会議への家族参加を促進するとともに、参加が困難な場合は面会や受診同行の機会を捉え、意向確認と状態説明を徹底した。入居者・家族の声を直接反映させることで、本人主体の会議運営を実現した。

③施設サービス計画書作成の適正化

本人及び家族の立場に立った援助の基本姿勢を忘れる事なく、チーム内での役割分担やケア方針を明確に記載した。多職種と本人、家族が計画に参画・共有できる構成とすることで、一貫性のあるサービス提供体制を構築した。

④事故予防対策の徹底

アセスメントとモニタリングに基づき、潜在的なリスクを計画書へ明記し安全なサービス提供に努めた。事故発生時は速やかに計画を見直し、再発防止策をケアに反映させることで、組織的なリスクマネジメントに努めた。

(4) 栄養部門

①安全で安心な食事提供

衛生管理の観点よりユニット調理から集団調理への移行を 5 月に行った。食事提供は手作りを意識した。研修は積極的に参加し、行政が主催する衛生管理研修では調理員に報告と実施を行った。給食委員会での食事提供の課題や業務体制改善を給食スタッフ会で協議することができた。

②栄養管理について

摂食状況を確認し可能な限り経口摂取ができるように食事援助支援に取り組んだ。管理栄養士が食事の様子を確認し、食事内容の変更の相談を行うことができた。また食事時間が 1 時間以上要していた方が食事内容を変更することにより短縮ができ、ご利用者の負担が軽減し笑顔が増えた。

③食を通して自立支援、自己選択、楽しみづくり

給食委員会は 2 か月に 1 度開催から行事委員会と合併し、月に 1 度開催でき行事食やおやつをユニット職員と検討することができた。嗜好調査は年 1 回行い、食事内容を改善し食事への満足度向上を図った。カレーを好まれるご利用者がおられるため月に 1 度提供していたが、うどんが食べたいとのアンケート結果から協議行い、提供することができた。

(5) 医務部門

ご利用者一人ひとりにあった対応と安心して生活ができるように多職種、ご家族と連携を取りながら、健康管理を行うことを目標とし取り組んできました。

ご利用者、ご家族等へ説明が不十分なところもありましたが、常に話し合いの場を持ち、次に活かせる取り組みをしていきました。7 年度の学びを活かしながら、ご利用者一人ひとりの病歴や疾患、健康状態を把握し、協力医療機関等と連携を図り、施設で安心して健康に生活が継続できるよう、多職種並びにご家族と情報共有し、引き続き利用者の健康管理に努めていく。

誤薬 0 を目標としたが、3 件の誤薬が発生した。イレギュラーなこともあったが、マニュアル通りにしていると防げたケースもあり、一人ひとりがマニュアルを遵守し、誤薬 0 への取り組みを続けていくこととする。

また、感染予防対策も施設全体で取り組んでいけるよう、感染予防委員とも協力し、感染予防に取り組んでいく。

(6) 事務部門

- ① 施設の窓口として、明るく親切丁寧な対応ができた。
- ② 多職種とも連携をとり、業務を円滑に遂行できた。
- ③ 経費削減に努め、環境美化にも取り組んだ。

(7) 身体拘束・虐待防止委員会

令和7年度の活動において、身体拘束や不適切ケアの発生報告はなし。

- ① ご利用者が安心して暮らし、「ここで良かった」と思っていただける場となるようよりよい支援を考え取り組む。

ご利用者の思いに寄り添えるよう、職員一人ひとりが研修などを通して振り返り、反省すべき課題があれば対策を立て、ユニット全体で取り組み、結果報告をするという事を行った。

- ② 「権利擁護」についての理解を深めるため、施設内外の研修に参加し、伝達講習を通して、施設全体で共有する。

内部の研修は年に各2回開催基本的な知識を学び、社会福祉協議会主催の『権利擁護』に関する外部の研修に参加。その研修資料の中から一部抜粋し、グループワークにて伝達研修を行った。

- ③ チェックリストやマニュアルの見直しを定期的に行い、ケアの質を高める。

毎回不適切な言動がなかったかマニュアル化した資料を基に振りかえりを行い、課題があれば対応策を立て、実行、経過報告を行った。

研修では「多忙なあまり、瞬間的な言葉がけが不適切になっているのでは？」という、現場からの素直な振り返りがあった。このことから、今後も職員一人ひとりが虐待や身体拘束防止への意識を常に持ち続けることが重要であり、研修の大切さを改めて理解した。

今後も全職員が思いを一つにし、愛情を持ってご利用者を守り抜ける「強いチーム」を目指します。来年度も委員会としての役割を果たせるよう、一丸となって取り組んでいきたい。

(8) 事故防止委員会

介護職のマニュアル遵守してない誤薬はなく、グループ会等での啓発、職員の薬に対しての意識力が上がった。毎月グループ会にてヒヤリハット対応策の妥当性を検証した。気づきが少なくヒヤリハット件数が減少しているのは今後の課題。研修も記録の書き方や緊急時の対応を実施し現場で活用できる内容を行う。ICT 機器導入後が映像を見返す事ができ、具体的な対応策をたてる事ができ予防に努めた。

(9) ノーリフティング委員会

補助金を活用し福祉用具を導入。実技研修にて身体の使い方、福祉用具の基本技術を行い腰痛発症者なし、施設にある機器の使い方を再確認し、ご利用者に合った機器を使用し活用している。また ICT 機器導入した事で、入居者の健康状態把握、アクシデント時の確認方法が可視化されたことによって職員は安心と根拠をもって介護ができる環境になっている。

(10) 感染防止委員会

委員会開催ごとに、県内、当荘のコロナ陽性者数報告並びに、当荘感染対策自主点検表を配布、記入、評価を行い当荘感染予防防止に努めることができた。

上半期コロナ陽性者 9 名 下半期コロナ陽性者 5 名 計 14 名 症状発症あれば、隔離や病院受診を迅速にすることで、感染拡大予防につなげることが出来た。

(11) 褥瘡予防委員会

- ① 入居時に OH スケール測定を行い高リスク者にはマットレスの調整をし、褥瘡発生件数は 0 件であった。また利用者の状態に合わせて多職種で再検討し定期的にマットレスの調整を行った。
- ② 日々のケアや担当者会で早期発見や情報共有を行い、多職種によるチームケアを実践し褥瘡発生やスキントラブルの予防を行った。
- ③ OH スケールの指導を行った。

(12) 災害対策委員会

BCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うと共に、令和 7 年度は停電を想定した食事提供訓練、大規模災害を想定し近隣病院、地域住民の方々と共同しトリアージ・搬送訓練を行いコロナ禍で一度途切れた地域との繋ぎの再構築にも努めた。

【活動実績 入所定員：80 名】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
稼働率 (%)	94.3	96.0	97.1	96.3	95.1	97.8	96.8	94.8	94.4	98.2	96.1	97.4	96.2
1 日 平均 (人)	75.4	76.8	77.7	77.0	76.1	78.2	77.4	75.8	75.5	78.6	76.9	77.9	76.9

【行事等】

4 月	お花見（各ユニットでお出かけ・2 階テラスにて昼食会）
5 月	端午の節句の飾りつけ（正面玄関）
6 月	紫陽花鑑賞（各ユニットでお出かけ・施設敷地内を散歩）
7 月	七夕
8 月	夏祭り（地域交流ホール）
9 月	敬老会（地域交流ホール）
10 月	運動会（各グループごとに開催）
11 月	作品展・土佐塾中学・高等学校音楽部によるコーラス
12 月	クリスマス・お餅つき・大掃除
1 月	初詣（各ユニットごとに種間寺）
2 月	節分・なかよし会による演舞、歌披露
3 月	お花見弁当・ひな壇飾りつけ

令和 7 年度もコロナウイルスの感染対策を心がけながら、ご利用者の暮らしをより楽しく生きがいのあるものにするため、毎月恒例の行事に加え、季節を感じていただけるような外出支援をはじめ、イベント食の提供、買い物や自宅訪問など、個別のニーズにもお応えできるよう努めた。また、外部からのボランティアさんによる歌や、踊りの訪問もあり、少し活気が戻り、1 年を通してご利用者の笑顔も多く見られた。

【外部研修】

開催月	内 容
6 月	分かりやすい説明の仕方 生産性向上推進に関する研修
7 月	年上部下への関わり方
8 月	虐待防止・権利擁護 四国老人福祉施設研究大会 西分地区自主防災ネットワーク
9 月	福祉サービス苦情解決セミナー 対人関係能力スキルアップ

10 月	安全運転管理者講習 リスクマネジメント 権利擁護 急変の気づきと対応
12 月	ユニットリーダー研修 民間退職システム電子化説明会
1 月	ユニットリーダー研修 施設長研修
2 月	社会福祉施設総合保険制度説明会 第 6 回 高知家 ノーリフティングフォーラム
3 月	甲種防火管理者講習

【内部研修】

開催月	研修内容
4 月	・オムツマイスター研修
5 月	・事故防止委員会「誤薬」 ・災害対策委員会「安否確認」
7 月	・災害対策委員会「BCP 研修」（動画）
8 月	・身体拘束・虐待委員会 「虐待・身体拘束廃止について」（高知市研修動画） 「身体拘束排除への取り組み」（動画） ・消防訓練（日中）
9 月	・口腔ケア研修（広田歯科医院協力） ・感染対策委員会「感染症に関する研修」（動画） ・上半期総会「事故・褥瘡・感染・身体拘束・虐待」各委員会
10 月	・災害対策委員会「うららか春陽荘避難訓練」
11 月	・ノーリフトケア研修（スカイリフト説明、デモ体験）
12 月	・感染対策委員会「感染対策研修」（ノロウィルス等嘔吐時の処理） ・災害対策委員会「BCP 訓練」（初動訓練・炊き出し訓練）
1 月	・感染対策委員会「BCP 訓練座学」（動画） ・災害対策委員会「BCP 訓練座学」（動画） ・事故防止委員会「介護現場での緊急時の対応研修」（医務室協力）

2 月	・身体拘束・虐待防止委員会（グループワーク） ・感染対策委員会「手指衛生について」 ・消防訓練（夜間）
3 月	・災害対策委員会「西分地区防災合同訓練」 ・ハラスメント相談窓口「介護現場のハラスメント対策研修」（動画）

2 短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

①在宅生活の継続

可能な限り、住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、残存能力を生かした介護サービスの提供を行い、日々の状態観察に努めた。また、体調変化があればご家族やケアマネジャーに連絡・相談し、緊急に応じた対応も行った。担当者会に定期的に参加することで、各事業所での状態把握に努め、多職種と協力し合いながらご利用者の課題に取り組むことが出来た。

②ご家族支援

ご家族様のレスパイト目的や緊急時の受け入れができるよう調整を行い、介護負担軽減に努めた。また、ご利用者・ご家族のニーズに沿った支援を行うため、他事業所との情報共有を行い、ご利用者の身体的な援助、不安感への軽減、他者との交流機会の支援を図ることができた。

③稼働率の安定化

令和7年度の稼働率は月によって67～90%と差が大きく見られた。その中で冬頃、定期利用されていたご利用者様の訃報や入院が続出し、著しく数値の低下が見られた。現在、単発的なご利用が増えている中、週ごとの定期利用が減ってきている。ご利用者様が定期的にご利用できるよう、可能な限りの日程調整やご家族様、他事業所との連携を行い、信頼関係の構築に努めていく。

【活動実績 利用定員：10名】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日 平均 (人)	8.3	9.0	8.2	8.4	8.5	7.4	8.5	7.8	6.7	6.9	8.4	8.2	8.0
稼働率 (%)	83.0	90.0	82.0	84.0	85.0	74.0	85.0	78.0	67.0	69.0	84.0	82.0	80.0

3 デイサービスセンターはるかぜ

ご利用者一人ひとりの個別性を重視し、趣味趣向や生活歴を反映した個別レク（手芸、園芸、囲碁、将棋など）を充実させたサービスの提供が出来た。また、普段あまり体操に参加されないご利用者にも、身体を楽しく動かす事ができるよう音楽に合わせたリズム体操を積極的に取り入れる事により、体操への参加者が増えた。

季節の行事や、ボランティアによる演奏会等のレクリエーションにおいては、四季折々の変化を感じつつ普段は交流の少ないご利用者同士もコミュニケーションを図る良い機会を持つ事ができた。また、おやつレクでは昔を思い出しながら調理を行い食べる事への楽しみも感じながら、よりご利用者の笑顔が増え心の健康にも繋がった。

家族とのやり取りでは、連絡帳を使ってご利用者の状態を伝える事はもちろん、必要時には電話連絡をし、些細な事でもご家族が安心を得られる情報発信に努めた。また、ご家族や見学に来られた方より、職員の対応、雰囲気が良いとの評価をいただく機会も増えた。

定期的なブログの更新や、ケアマネジャーとの密な情報交換を行い、毎月、体験や新規利用者の相談等の問い合わせがあり、信頼関係の深化が見られた。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日 平均 (人)	17.3	18.6	19.7	20.1	19.0	18.6	18.5	19.8	19.3	18.2	19.4	19.3	19.0
稼働 率 (%)	69.0	74.4	78.8	80.4	76.0	74.4	74.0	79.2	77.2	72.8	77.6	77.2	75.9

【内部研修】

開催月	研修内容
4月	・事業計画
5月	・事故防止委員会「誤薬」 ・災害対策委員会「安否確認」
7月	・災害対策委員会「BCP研修」（動画）
8月	・身体拘束・虐待委員会 「虐待・身体拘束廃止について」（高知市研修動画） 「身体拘束排除への取り組み」（動画） ・消防訓練（日中）

9 月	・口腔ケア研修（広田歯科医院協力） ・感染対策委員会「感染症に関する研修」（動画） ・上半期総会「事故・褥瘡・感染・身体拘束・虐待」各委員会
10 月	・災害対策委員会「うららか春陽荘避難訓練」
12 月	・感染対策委員会「感染対策研修」（ノロウイルス等嘔吐時の処理） ・災害対策委員会「BCP 訓練」（初動訓練・炊き出し訓練）
1 月	・感染対策委員会「BCP 訓練座学」（動画） ・災害対策委員会「BCP 訓練座学」（動画） ・事故防止委員会「介護現場での緊急時の対応研修」（医務室協力）
2 月	・身体拘束・虐待防止委員会（グループワーク） ・感染対策委員会「手指衛生について」 ・消防訓練（夜間）
3 月	・災害対策委員会「西分地区防災合同訓練」 ・ハラスメント相談窓口「介護現場のハラスメント対策研修」（動画） ・入浴加算研修

4 デイサービスセンターそよかぜ

① 認知症ケアの専門性

本年度は、ご利用者一人ひとりの認知症の特性や生活歴、現在の心身状態を踏まえた個別ケアの実践に努めた。職員間で日々の情報を共有し、統一した対応を図ることで、ご利用者が安心して過ごせる環境づくりを進めた。また、定期的な勉強会や外部研修への参加を通じて、認知症ケアに関する知識・技術の向上を図り、周辺症状への理解を深めながら、状態に応じた関わりを実践した。その結果、ご利用者の安定した表情や落ち着いた生活につながり、職員全体の対応力向上もみられた。今後も、根拠に基づくケアの実践と振り返りを継続し、より専門性の高い支援の提供を目指す。

② ご家族支援

ご家族との信頼関係構築を重視し、日々の連絡帳や送迎時の対話を通じて、ご利用者の様子や支援内容を丁寧に共有した。必要に応じて相談対応を行い、不安の軽減や安心感の定着に努めた。その結果、ご家族からの理解や協力を得やすくなり、継続利用にもつながった。一方で、情報発信の頻度や内容にばらつきがある点が課題として残った。今後は、より積極的な情報発信（そよかぜ通信やブログ更新、活動報告等）を行い、ご家族との関係性をさらに強化していく必要がある。

③ 稼働率の安定

地域への周知や関係機関との連携強化に努め、一定の利用者確保につながった。既存ご利用者については、満足度向上を意識した支援の積み重ねにより、利用回数増加や利用継続

率は安定している。しかし、新規利用者の獲得に関しては波があり、稼働率の安定には至らず、継続的な広報・営業活動が必要である。今後も、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等への定期的な情報共有に加え、事業所の特色や強みを分かりやすく発信し、安定した稼働率の確保を目指す。

【活動実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日 平均 (人)	6.3	6.6	6.9	5.9	6.1	7.8	8.1	7.1	7.3	6.8	6.8	7.1	6.9
稼働 率 (%)	52.5	55.0	57.5	49.2	50.8	65.0	67.5	59.2	60.8	56.7	56.7	59.2	57.5

【外部研修】

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
R7.6～8	福祉交流プラザ 現場実習	認知症介護実践者研修 「実践者研修」	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会	1名

【内部研修】

開催月	研修内容	勉強会
4月	事業計画	
5月	事故防止委員会「誤薬」 災害対策委員会「安否確認」	
7月	災害対策委員会「BCP研修」(動画)	認知症の定義と原因疾患
8月	身体拘束・虐待委員会 「虐待・身体拘束廃止」 「身体拘束排除への取り組み」	中核症状と周辺症状の理解
9月	感染対策委員会「感染症に関する研修」 事故・褥瘡・感染・身体拘束・虐待各委員会「上半期総会」	
10月	災害対策委員会「うららか春陽荘避難訓練」	認知症対応型デイサービスとは
12月	感染対策委員会「感染対策研修」 災害対策委員会「BCP訓練」	周辺症状への対応 実践研修資料

1 月	感染対策委員会「BCP 訓練座学」 災害対策委員会「BCP 訓練座学」 「介護現場での緊急時の対応研修」	記録の書き方
2 月	身体拘束・虐待防止委員会 動画研修 感染対策委員会「手指衛生について」 災害対策委員会「消防訓練」	個別の重要性と効果
3 月	災害対策委員会「西分地区防災合同訓練」 ハラスメント相談窓口「介護現場のハラスメント対策研修」 入浴加算研修「入浴介助における動画研修」実技「着脱介助・リフト操作」	

5 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

巡回の際には世間話等もしながら健康状態を確認し、注意喚起する事が出来た。相談者については居宅介護支援事業所やその他の関係機関に繋ぐ事が出来た。

6 うららかキッズガーデン

保護者の方との情報交換を密に行いながら、生活習慣や発育について個々に応じた支援と保護者の方との情報共有を心がけた。

事業所特性でもある高齢者との交流は感染状況を把握しつつ、餅つき・芋掘り等に参加出来た。

【入所児童数 定員 11 名】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
職員	0 歳							1	1				
	1 歳												
	2 歳												
地域	0 歳	1	1	1	1	1	1						
	1 歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	2 歳												
合計		3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2

- ① 個々の健康状態や子どもたちの様子を見て、日々の計画や保育士の配置を変更するなど柔軟な保育を行った。
- ② 保護者とは送迎時の会話や連絡帳を通して、園での様子を細かく伝え育児相談を受けることも多く保育士として専門性を生かした助言や個々に応じた支援を行う事が出来た。

③ 職員間では、月 1 回の職員会議 毎日のミーティング 伝言ノートを活用して共通理解を図った。

④ 令和 7 年度意見受付対応件数 0 件

【研修参加状況】

月	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加 人数
4 月	高知市	第 1 回乳児保育研修	乳児期の栄養について 乳児の健康と安全・衛生 管理	高知市保育幼稚園課	1
5 月	高知市	アレルギー対応研修	保育所における食物ア レルギー児への対応の 仕方	高知市保育幼稚園課	1
6 月	高知市	プール管理研修	プールの安全と衛生管 理	高知市保育幼稚園課	1
6 月	高知市	食育研修	保育給食の栄養管理 ノロウィルスによる食 中毒 栄養施策の動向につい て	高知市保育幼稚園課	1
7 月	高知市	救命救急講座	事故防止ガイドライン に見る事故対策 普通救命講習	高知市保育幼稚園	1
10 月	高知市	乳児保育研修	0.1 歳児保育で大切に したいこと 乳児の発達について	高知市保育幼稚園	1

・キャリアアップ研修

食育・アレルギー対応	1 名
保護者支援・子育て支援	1 名
保健衛生・安全対策	1 名
障害児保育	1 名

〔3〕在宅介護センターわかくさ関連事業

1. デイサービスセンターくつろぎの家

2つのホールを活用して、ご利用者一人ひとりに合わせた個別レク（脳トレ、パズル、塗り絵等）や季節行事を提供、毎月のカレンダー作りも継続して取り組むことができた。また、千羽鶴を制作して隣接する朝倉第二小学校の児童に手渡しし、修学旅行で広島県の平和記念公園に納めてもらい、地域交流と創作意欲向上にも繋がった。そして、

平行棒を使用した歩行訓練や手指訓練、ペダル漕ぎや滑車等の機能訓練を積極的に実施するとともに、洗濯物干し、たたみ、食器洗い、おぼん拭き等の生活リハビリを取り入れ、身体機能維持・向上を図ることができた。

毎月、ご利用者からの要望を取り入れた献立による「くつろぎ御膳」を継続、食欲増進や「食」への関心に繋がったと考える。

認知症ケアについて困りごとがあった際は、認知症専門であるわかくさの家に対応方法について相談する機会を設け、ケアに生かしていくようにした。

経営に関しては、体験利用より新規利用に繋がるケースが多くあり、稼働率上昇となったが、2月のコロナウイルス感染症による欠席が影響し、目標達成することができなかった。今後、更なる新規利用者獲得が課題となった。

【行事等】

4月	誕生会・くつろぎ御膳・花見
5月	誕生会・くつろぎ御膳・母の日
6月	誕生会・くつろぎ御膳・父の日
7月	誕生会・くつろぎ御膳・七夕
8月	誕生会・くつろぎ御膳・夏祭り
9月	誕生会・くつろぎ御膳・敬老会・防災訓練
10月	誕生会・くつろぎ御膳・運動会
11月	誕生会・くつろぎ御膳・秋を感じよう
12月	誕生会・くつろぎ御膳・年忘れ会
1月	誕生会・くつろぎ御膳・初笑い
2月	誕生会・くつろぎ御膳・節分
3月	誕生会・くつろぎ御膳・ひな祭り・防災訓練

2. デイサービスセンターわかくさの家（認知症対応型通所介護）

認知症の症状を理解するとともに、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り職員間で情報共有を行った。そして、周辺症状を未然に防ぐことを重点的に統一したケアを実施し、安心して穏やかに過ごせる場所の提供を心掛けた。また、在宅生活を支えてくれているご家族を支援するため、送迎時にはご家族とのコミュニケーションを積極的に図り、ご自宅での生活状況や日々の状態把握、他事業所との連携を取り、介護負担軽減に努めた。

より専門性の高い認知症ケアを提供できるよう、ユマニチュードについて勉強会を重ね、理解を深めることができ、少しでも実践することができたと感じる。

事業所内では感染対策を継続しつつ、行事や活動を行い、ご利用者の「笑顔」の場となり、職員の喜びに繋がったと感じている。また、創作活動で制作した千羽鶴は隣接する朝倉第二小学校の児童に手渡しし、修学旅行で平和記念公園に納めてもらい、地域交流となった。

経営に関しては、年間を通して新規利用者が少なく、入院や施設入所されるご利用者が多かったため、稼働率が上がらない結果となり、定期的な新規利用者獲得が今後の課題となった。

【行事等】

4 月	
5 月	誕生会・母の日
6 月	誕生会・父の日
7 月	誕生会・七夕
8 月	誕生会・夏祭り
9 月	敬老会・防災訓練・運営推進会議
10 月	誕生会・ミニ運動会
11 月	誕生会・介護の日
12 月	誕生会・クリスマス会
1 月	誕生会・わかくさ神社（おみくじ）
2 月	誕生会・バレンタインクッキング
3 月	年度末お楽しみ会・防災訓練・運営推進会議

【要介護別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	2	2	2	2	3	4	4	5	5	4	3	2	38
要介護2	7	7	7	7	6	5	5	5	5	5	5	4	68
要介護3	6	6	5	5	6	5	6	5	5	4	5	6	64
要介護4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要介護5	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
合計	17	17	16	16	17	16	16	16	16	14	14	13	188
1日平均	8.7	9.0	8.9	8.5	8.4	8.6	8.1	8.0	8.7	7.3	8.2	7.3	8.3
平均介護度	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.1	2.1	2.1	2.3	2.5	2.4

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	緊急時の対応について 事業計画、職員の心得、倫理、法令遵守について	
5月	事業継続計画の研修及び訓練（自然災害編） 個人情報とプライバシーについて	
6月	熱中症について（伝達） 食中毒予防について 接遇マナーについて 入浴介助研修①	
7月	熱中症について（伝達） ハラスメント防止について ユマニチュードについて①	高齢者虐待防止・権利擁護研修（1名）
8月	電話応対について ユマニチュードについて② 介護事故防止について	高齢者虐待防止・権利擁護研修（1名）
9月	防災（ベルカ移動・炊き出し訓練）について ユマニチュードについて③	
10月	高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達） 季節性感染症の予防、まん延防止について ユマニチュードについて④ 送迎業務について	

11 月	高齢者の消費者トラブルを防ぐために（高知市消費生活センター） ユマニチュードについて⑤	
12 月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止について ユマニチュードについて⑥ 入浴介助研修②	
1 月	事業継続計画の研修及び訓練（感染編） ユマニチュードについて⑦	
2 月	ユマニチュードについて⑧	
3 月	権利擁護・成年後見人制度について ユマニチュードについて⑨	

3. 小規模多機能型居宅介護わかくさ

日々、変化していくご利用者の生活状況の把握に努め、関係機関の協力も得ながら適切な支援を行う事が出来ていたが、地域への参加に関しては、職員の人員不足により、思うように参加出来なかった。年度末には職員の人員不足も解消出来た為、令和8年度は積極的に地域参加を支援していきたい。

また、本年度は介護職の慢性的な人材不足の影響を受けた事もあり、今後は、働きやすい環境を作り、まずは離職者をなくす事、職員が楽しく働ける雰囲気を作り、ブログ等でアピールし働きたいと思って貰えるように努めていきたい。

経営面では、感染予防対策の効果と、ご利用者・職員の体調変化に敏感に対応した結果、感染症の拡大もなく、体調不良による入院者や登録解除者が例年よりも少なかった為、安定した経営で目標も達成する事が出来た。

自居宅の協力もあり、待機者が少ないにも関わらず、登録解除から新規登録にあまり空き日数を作る事なくスムーズに行えたが、他居宅からの待機者が少ない事は反省点である。

事業所のアピールの為にブログの更新を頻回に行い、訪問営業に努め待機者の確保を図りたい。

本年度は高額な設備修繕が相次いだ。経年劣化もあるが、日頃から正しく丁寧な使用を心掛け、故障を軽減し少しでも長く使用出来るように心がけていきたい。

【行事】

4 月	・ドライブスルー花見（車内換気を行い少人数でドライブ） ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・センター清掃	10 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
5 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第 1 回）	11 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第 4 回） ・センター清掃 ・職員インフルエンザ予防接種 ・平成福祉専門学校法人説明会
6 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・あじさいドライブ（車内換気を行い少人数でドライブ）	12 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・クリスマス会（感染対策を行い事業所内で実施） ・町内会餅つき参加
7 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第 2 回）	1 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・運営推進会議（第 5 回）
8 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・小規模わかくさよさこい祭り（感染対策を行い事業所内で実施）	2 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・第一興商レクデモンストレーション
9 月	・敬老会（各事業所にて感染対策を行いながら催す） ・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・防災訓練 ・運営推進会議（第 3 回）	3 月	・誕生会（感染対策を行い事業所内で実施） ・防災訓練 ・運営推進会議（第 6 回）

【介護度別利用者数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	52
要介護 2	7	7	7	7	7	7	6	6	5	6	7	7	79
要介護 3	6	6	5	4	4	4	5	5	5	4	4	4	56
要介護 4	6	6	8	8	8	8	9	9	9	9	8	8	96
要介護 5	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	65
計	29	29	30	29	29	28	29	29	29	29	29	29	348
平均介護度	3.1	3.1	3.17	3.17	3.17	3.11	3.17	3.17	3.14	3.1	3.03	3.03	3.12

【機能別延利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	421	424	397	431	438	378	367	362	382	374	387	391	4752
訪問	465	554	411	527	492	390	504	533	545	568	499	576	6064
宿泊	98	95	91	99	75	96	87	85	70	76	114	94	1080
計	984	1073	899	1057	1005	864	958	980	997	1018	1000	1061	11896

【研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	・センター勉強会 (緊急時の対応について)	
5月	・センター勉強会 (自然災害 BCP 研修・訓練)	
6月	・センター勉強会 (食中毒予防) ・伝達研修 (熱中症アンバサダー研修発表)	
7月	・センター勉強会 (ハラスメント)	・高知県要介護施設中堅・リーダー職員対象高齢者虐待・権利擁護研修 (1名)
8月	・センター勉強会 (電話対応について)	・高知県要介護施設中堅・施設長・管理者対象高齢者虐待・権利擁護研修 (1名) ・失敗しない ICT 機器 Web 研修 (1名)
9月	・センター勉強会 (炊き出し訓練・ベルカ使用訓練)	・高知県認知症介護実践者研修 (1名)
10月	・センター勉強会 (季節感染症予防・まん延防止について) ・伝達研修 (高知県高齢者虐待防止・権利擁護研修発表)	・安全運転管理者講習 (1名)
11月	・センター勉強会 (高知市出前講座: 消費者トラブルを防ぐ為に)	・新規採用者研修 (1名) ・高知県認知症介護実践者研修 (1名)
12月	・センター勉強会 (身体拘束・虐待)	
1月	・センター勉強会 (感染 BCP 研修・訓練)	
2月	・感染症拡大にて中止	・社会福祉施設総合保険制度説明会 (2名)
3月	・センター勉強会 (権利擁護・成年後見人制度について)	

4. くつろぎの家 訪問入浴サービス

心身ともに癒しの時間となることを心掛け、個々のニーズに合わせた丁寧な援助を行うことができた。職員の休暇時に他部署から応援に入ってもらった際でも、統一した援助が行えるよう応援職員にマニュアルや利用者の細かい情報を伝達する等の取り組みを行った。

そして、毎月の運営検討会にて、勉強会を実施し職員の技術向上に繋がったと感じる。

残念ながら、使用物品の整備不良による介護事故があり、今後、定期的な物品の点検、整備を確実に実施し、安全な入浴を提供していく。

令和7年度における新規利用者は1名であり、新規受け入れ等が前年度に比べ減少した理由として長期入院者が少なくご利用者の状態が安定していたことが挙げられる。また、サービス提供地域が高知市、土佐市、いの町と広範囲だが、時間調整やルート確保をする事で1日5件の訪問がほぼ確保でき、急遽の空き枠に対しても祝日の振替利用を提案し、稼働率を維持することができた。

【要介護別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	11
要介護3	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
要介護4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	45
要介護5	13	13	11	11	11	10	9	10	9	10	11	12	130
障害	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	20	20	19	19	19	18	17	17	17	18	18	19	221
1日平均	4.4	4.8	4.2	4.5	4.2	4.1	4.1	4.3	4.0	4.3	4.6	4.4	4.3
平均介護度	4.5	4.6	4.3	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5

【職員研修報告】

	内部研修	外部研修
4月	緊急時の対応について 事業計画について	
5月	事業継続計画の研修及び訓練（自然災害編）	
6月	熱中症について（伝達） 食中毒予防について	

7 月	熱中症について（伝達） ハラスメント防止について	
8 月	電話応対について 個人情報とプライバシーについて	高齢者虐待防止・権利擁護研修（1名）
9 月	防災（ベルカ移動・炊き出し訓練）について 職員の心得、倫理、法令遵守について	
10 月	高齢者虐待防止・権利擁護研修（伝達） 季節性感染症の予防、まん延防止について 接遇マナーについて	
11 月	高齢者の消費者トラブルを防ぐために （高知市消費生活センター） 認知症ケアについて	
12 月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止について	
1 月	事業継続計画の研修及び訓練（感染編）	
2 月	※感染拡大予防にて中止	
3 月	権利擁護・成年後見人制度について	

5. 高知市在宅介護支援センター あさくら（居宅介護支援事業所）

（1）心豊かな生活の表現

令和 7 年度は新型コロナウイルスの感染の影響もほぼ無く、以前のように介護保険サービスを使い、生活を支援してもらいながら住み慣れた地域で過ごす生活スタイルとなってきた。介護保険サービスを使う事で介護者の介護負担も軽減してきており、サービスの利用率は増大傾向になってきている。

介護保険サービスの利用をされるご利用者も増えてきており、ご利用者の身体機能低下の防止、介護者であるご家族への介護負担の軽減にも重視しながら支援する事が出来ていた。

（2）介護支援専門員としての質の向上

事業所内での週 1 回の定例会は実施出来ています。困難なケースに関しては一人で悩まずに事業所内の主任介護支援専門員を中心に全員でケアマネジメントの方向性やサービスの適正を確認出来ていました。主任介護支援専門員は 2 ヶ月に一回の資質向上研修に参加し、複数事業所と共に事例検討することで質の向上を図る事が出来ていた。

また他のケアマネジャーも外部研修に積極的に参加する事で学べ、また事業所内の定例会で伝達する事で全ケアマネジャーにも理解を得る事が出来ていた。

(3) 関係機関との連携強化等

同センターに併設の朝倉地域包括支援センターと共にご利用者の相談に協力する事が出来ていた。ご利用者の獲得も積極的に実施する事が出来ている。併設の部署でもある朝倉包括とは連携も取りやすく、相談もしやすい為、共に行動する事も出来ており、ご利用者にとっても安心して相談出来る体制作りが出来たと思う。地域との交流という部分では機会は少ないままではあるものの地域の清掃活動等に参加する事が出来ている。ご利用者からの介護相談では朝倉包括からの依頼は可能な限り多く受け付ける事が出来ていた。

医療機関との連携の部分では以前のように入院中のご利用者にも会えない事もなく、お会いする事が出来て退院前カンファレンスの開催も実施する事が出来ているので退院帰宅後のサービスの調整がスムーズに出来るようになっている。まだリモートによるカンファレンスもあるものの細かい申し送りを報告して下さる事でサービス調整もスムーズに出来るようになった。

(4) 新規利用者様の確保・相談援助

ご利用者の確保に関しては併設の朝倉地域包括支援センターからの依頼や一般の方からの相談、病院地域連携室からの依頼により、連携を図る事が出来ていた。

朝倉包括からの依頼は月平均で約 3～5 件程の新規利用者を支援させて頂く事が出来ていた。また医療関係機関へ営業に行き、声掛けさせてもらう事で医療機関からの依頼を受け付ける事が数件出来ていた。令和 7 年度では積極的に色んな事業所からの新規依頼も受け付ける事が出来ている。

(5) 感染症・災害への対応力強化・事業継続計画（BCP）

感染症に対応に関しては新型コロナウイルスも 5 類となり、インフルエンザの流行期もあったが、以前のような生活スタイルに戻っている。インフルエンザでも以前と変わりがなく対応する事が出来ていた。

困っている家族とはまめに相談する事で代替サービスや他のサービスの提供等で介護者・ご利用者の負担軽減を図る事が出来た。

事業継続をしていく為に災害発生時を想定した炊き出し訓練や各種訓練等を通して必要な物や必要な動きを確認する事が出来、充実した訓練を実施する事が実現出来た。

【介護度別請求件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	65	63	68	71	72	71	78	73	81	79	80	87	888
要介護2	46	43	43	41	41	42	41	39	41	38	39	43	497
要介護3	20	24	21	21	20	19	19	15	15	18	17	16	225
要介護4	6	7	6	5	6	7	9	10	10	10	8	9	93
要介護5	2	2	2	2	3	3	2	1	2	3	3	3	28
計	139	139	140	140	142	142	149	138	149	148	147	158	1731
平均介護度	1.8	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.8	1.7	1.7	1.8
予防・総合	29	32	34	36	39	41	42	43	44	44	39	39	462
合計	168	171	174	176	181	183	191	181	193	192	186	197	2193

【職員研修等】

	内部研修	外部研修
4月	勉強会 「緊急時の対応方法と心構え」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 介護支援専門員定期総会（2名） 地域ケア会議（1名）
5月	勉強会 「BCP（事業継続計画）等の研修及び訓練」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 介護予防支援従事者研修会（1名） 主任ケアマネ資質向上研修＜複数事業所＞（1名）
6月	勉強会 「食中毒について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）
7月	勉強会 「ハラスメント研修」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 西部地域医療カンファレンス（1名） 主任ケアマネ資質向上研修＜複数事業所＞（1名）
8月	勉強会 「電話対応のビジネスマナー」	高知市居宅介護支援事業所多職種連携西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）

9 月	勉強会 「防災炊き出し・避難昇降訓練」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 主任ケアマネ資質向上研修＜複数事業所＞（1名）
10 月	勉強会 「送迎時の嘔吐対応と他の利用者への対応」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名） 西部地域医療カンファレンス（1名）
11 月	産業医の見える化 内部研修 外部講師 「悪徳商法にご注意」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 主任ケアマネ資質向上研修＜複数事業所＞（1名）
12 月	勉強会 「高齢者虐待防止研修」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）
1 月	勉強会 「倫理及び法令遵守に関する研修」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 主任ケアマネ資質向上研修＜複数事業所＞（1名）
2 月	※感染症拡大により休会	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）
3 月	勉強会 「権利擁護について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 主任ケアマネ資質向上研修＜複数事業所＞（1名） 多職種協働医療カンファレンス（1名）

6. 高知市朝倉地域包括支援センター

【総括】

令和3年2月1日より地域包括支援センターの業務開始後5年経過、地域住民や関係機関とのネットワーク形成が進んできたと感じている。高齢者等が住み慣れた地域で安心して過ごせるための地域包括ケアの推進を目指し、高知市の高齢者福祉計画・介護保険事業計画との連動性を意識した事業計画を作成、目標達成に向けた業務の遂行に努めた。

① 総合相談・支援

三職種・ケアマネジャー・生活支援コーディネーターが協力し高齢者等の様々な相談に応じ、適切なサービス利用や機関・制度への繋ぎ、継続的支援を行った。

令和6年度の相談実人数1,681名、対応延べ件数8,657件であったのに対し、令和7年度は相談実人数1,774名、対応延べ件数8,748件、相談人数・対応件数共に増加。相談内容としては介護保険に関する相談件数が多いが、生活困窮やケアマネ支援も年々相談が増加傾向、相談員の対応力向上が求められている。

② 権利擁護業務

令和7年度虐待疑いの通報受理・対応件数は10件。虐待認定された件数9件。常に権利擁護の視点を持ち業務にあたることを意識、権利侵害を受けていると思われるケースの相談があった際には早期に対応検討を行い、重度化したケースはなかった。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

介護支援専門員からの個別事例に関する相談へのアドバイスや関係機関との連携、介護支援専門員の実践力向上支援を、様々なアプローチ方法で行った。

④ 介護予防・生活支援サービス事業

ア) 介護予防マネジメント（事業対象者）

R7年度実績155件。事業対象者に対して、介護予防および日常生活支援を目的とし、心身の状況に応じた適切な事業が実施されるよう支援を行った。

イ) 予防給付ケアマネジメント（要支援1・2）

R7年度実績358件。高齢者等の状態悪化を防ぎ、自立を目指したケアマネジメントを行うよう努めた。

⑤ 在宅医療・介護連携推進事業

個別ケースを通じて居宅介護支援事業所・訪問看護・医療機関等関係機関との連携を強化、相談しやすい関係作りの構築に努めた。

⑥ 生活支援体制整備事業

朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会や福祉委委員の会等の地域住民主体の会議・活動に関与し地域課題を住民と共有。住民や中学校、関係機関とともに‘地域カフェ’や‘百歳体操お世話役交流会’を開催した。

第一層協議体会議に参加し高知市の動向を把握し事業計画作成の参考にするようにした。

⑦ 認知症総合支援事業等

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる支援のための事業を計画、認知症カフェの新規開催・継続支援を行い、認知症の正しい理解を広める認知症サポーター養成講座・学習会の機会を捉え開催した。また今年度は高知市の認知症地域支援専門員活動や認知症初期集中支援事業の方向性について地域包括支援センター間で協議があり、来年度、認知症施策推進の方向性が市から示された。

⑧ 地域ケア会議推進事業

偶数月に定期地域ケア会議を開催。随時地域ケア会議 2 回開催。地域ケア会議開催後には、地域ケア会議推進会議を実施、地域課題の整理・検討を行ったが地域課題の解決策実行には至らなかった。来年度の運営方法が見直されマニュアル変更となったので、年度末は新年度に向けデモ的に地域ケア会議を実施した。

⑨ 一般介護予防事業

地域の介護予防活動はいきいき百歳体操・宅老所を中心に生活支援コーディネーターが関係機関と協力し継続支援等を実施。課題が明確化してきたので、地域住民とともに解決へ向け動いている。

7. 生活援助員派遣事業（シルバーハウジング若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等に関係機関と連携を取りながら活動を行ってきた。

訪問対応については、引き続き感染対策を行いつつ、安否確認等を行った。

また、緊急通報システム導入業者と連携を取りながら対応を行った。

○活動内容

生活指導・ 相談	安否の確認	一時的な 家事援助	緊急時の 対応	関係機関 との連絡	その他
19 件	897 件	0 件	19 件	25 件	282 件

緊急通報・・・緊急対応（3 件）

誤作動（1 件）

緊急対応	3 件	- 救急搬送された家族の対応をする。 - 意識はあるが、痛みがあり動けないため救急車を要請する。 - 自宅にて転倒、腫れ痛み痺れがあり、救急車を要請する。
その他	1 件	・通信機器エラー

8. 委員会

【広報委員会】

- ・年に3回の広報誌「つなぐ」の作成を実行し、在宅介護センターわかくさの介護保険サービスを利用されている方々への配布することが出来た。また、地域の方々に在宅介護センターわかくさの存在を知っていただくために併設の朝倉地域包括支援センターから朝倉での自治体7ヶ所等に配布し、地域福祉に貢献できるように働きかける事が出来た。
- ・当ホームページにて各事業所での活動内容が一般の方にも分かりやすいように毎月、各事業所が活動内容を更新する事が出来た。
- ・在宅介護センターわかくさに併設の朝倉地域包括支援センターを中心に朝倉地域の方々の困りごとや介護相談を受け付け、ご利用者、ご家族共に安心して地域で生活出来るように各関係機関と連携を図りながら社会資源や介護保険サービスの情報の提供・提案をする事が出来た。

【危機管理委員会】

令和7年度は定期的に委員会を開催し、課題の抽出、BCPの見直しを行った。また年2回の内部研修及び訓練を行い、職員の防災意識、感染対策の向上を図った。職員に非常災害時の行動ルールを周知するため携帯化し公用車にも常備し迅速に対応できるよう取り組んだ。

避難方法では、階段での昇降訓練を実践したが、少ない職員数の時の対応や、ベルカの避難方法について見直しの必要性や、検討する機会となった。また備蓄品を活用して福祉避難所や避難者の炊き出しの訓練、非常災害用のLPガスと発電機の使用法の共有と訓練、衛星携帯電話等の使用訓練等、避難訓練と合わせて実施することができた。

今後も地域とそれぞれの課題を共有して自助、共助の必要性を確認していきながら福祉避難所の受け入れ、事業継続に取り組んでいく。感染症BCPについては感染対策委員会と協同し、BCPを活用した机上訓練、感染予防対策の手技を行うことができた。今後もBCPの見直しを継続して行っていく。

【感染予防対策委員会】

- ① 在宅介護センターわかくさが策定している「感染予防対策マニュアル」を遵守しセンターの衛生管理、清潔保持を行うよう努めた。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生を完全に防ぐことはできなかった。食中毒発生はなかった。
- ② 年2回、看護師から感染対策に関する研修会を実施。職員に対し、マスク着用・手指消毒の徹底等を周知、また、発熱者への対応時には防護服を着用し、排泄物・吐物の取扱いには細心の注意を払う等の感染防止に努めた。

- ③ 季節の状況に応じた体調管理への注意を職員に投げかけ、ご利用者の健康状態安定支援を心がけた。
- ④ 外部からの訪問者等に検温・体調確認継続、外部からの感染症予防・まん延防止に努めた。ご利用者以外の外部からの持ち込みと思われる感染症の発生はなかった。

【研修委員会】

介護保険必須研修を中心にセンター勉強会を計画、グループワークを積極的に取り入れ、考える機会を持てるよう研修や訓練を実施した。

職員個々に応じた外部研修への参加を行い、スキルアップに繋げることができた。そして、外部研修での学びはセンター伝達会にて発表し、全職員と共有できるよう努めた。

Ⅲ 児童福祉関連事業

【総括】

少子化により園児数は減少の一途をたどる状況で、令和 7 年度より定員を 130 人から 100 人に変更した。

令和 7 年度 4 月、新入園児 8 名を迎え、園児数 82 名でスタートし、年度途中で 0 歳児 11 名、1 歳児 1 名、4 歳児 1 名を受け入れたが、4 名が転園し年度末の園児数は 91 名であった。

日々の保育においては、基本方針ならびに重点目標を踏まえて保育計画を立案し、情緒の安定、健全な心と体の発達を育む保育をめざした。各行事も概ね予定通り行うことが出来、家庭に子どもの成長した姿や園の様子を届けることができた。

地域交流では、今年度も春野東小学校及び近隣の児童福祉施設 4 園と積極的に交流した。その経験は、子どもたちの就学への期待感の高まりとなっている。加えて、保護者にとっては不安の軽減となっている。今後は、可能な範囲で地域交流の幅を広げ、高齢施設訪問やイベントへの積極的な参加等により多世代交流をはかり、子どもたちの社会性を醸成するとともに思いやりの心を育みたい。

子育て支援では、昨年度同様、子育て支援センター、一時保育、病児保育、放課後児童クラブ事業等を開所し、子育て世帯のニーズに答えた。

昨今、少子化対策に加え、多様な家庭背景や環境に応じた子育て支援、子ども一人ひとりの個性を尊重した保育が求められている。これまで培ってきた伝統を継承するとともに、子どもの未来を視野に入れた保育の多様化、多機能化をはかり、選ばれる保育園づくりに努めたい。

〔1〕 うららか保育園 関連事業

活動報告

基本方針、保育目標、めざす子ども像を念頭に、「保育」「食育」「発育」の 3 つの育ちに努めた。

【保育】

乳児期保育では、一人ひとりの気持ちを汲み取り、安心できるよう愛着関係を築き、安全に過ごせる環境構成に努めた。また、基本的生活習慣の獲得に向けて、個々の発達やペースに合わせて育んだ。

幼児期保育では、自然と親しむ活動、体を使った遊びや製作などを通して、探求力や粗大・微細運動の発達につながる保育を心がけた。また、思いやりや譲り合いの心を育てる異年齢交流も積極的に行った。他にも、四季折々の行事をはじめ、外部講師による「お点前」、「英語で遊ぼう」、「まなびタイム」により知育・徳育に繋がった。

保護者には、各行事を通して子どもの育ちを参観していただくとともに、「園だより」「ク

ラスだより」や「ドキュメンテーション」の掲示により保育の様子や子どもたちの姿等を視覚的に伝えた。

【食育】

食育教室は、今年度は調理員に余裕がなく実施に至らなかった。子どもたちが食物の生産や調理にかかわる人に感謝する心が育つよう、今後は定期的に実施したい。

職員間では、栄養のバランスや年齢に応じた食材の大きさ、素材の味を生かした食事の提供、食材の安全性や品質などの検討を行った。また、アレルギー除去対象児に対しては、主治医の「アレルギー疾患生活管理指導表」を基に、多職種が協同して誤食防止に努めた。

【発育】

子どもの発育・健康管理、保護者への保健指導を看護師が主体的に実施した。

口腔衛生として、4歳児、5歳児クラスで昼食後にフッ化物洗口を行い、齲歯防止に努めた。

感染対策は、室内の環境整備、手洗い・手指消毒の徹底、登園時の体調観察を行うとともに、園の保健衛生に関する情報を適宜発信した。

保育中に発熱や嘔吐・下痢などの症状がみられた場合、看護師が体調不良児対応室で保護者の迎えまで、体調の変化に留意しながら安静保持に努めた。

その他、リスクマネジメントに関しては、昨年度の「保育中の怪我や事故の防止」「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」「災害への備え」に加え、「不適切保育の防止」に取り組んだ。

安心、安全な保育環境づくりに取り組んできたが、園外保育中に転落し前歯が動揺する重大事故が1件発生した。職員間で、再発防止のため、園外保育の安全対策を検討した。家庭に対しては、瞬時の連絡と丁寧かつ適切に対応により、大事に至らず解決できた。

睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防のため、保護者の仕事復帰のタイミングを考慮した上で慣らし保育を実施した。また、入眠中の観察・記録を徹底した。

災害への備えに対して、月1回避難訓練を行うとともに、様々な状況下で災害が発生した場面を想定した机上訓練も実施した。しかし、その中での疑問や課題を職員間で討議するまでには至らなかった。今後、意見交換を行い、マニュアルをブラッシュアップしていく。

年2回実施している「災害伝言ダイヤル171体験」および「伝達一斉発信システム（コミュなび）」による情報伝達訓練の体験率は20%と昨年度の15%から微増した。しかし、情報伝達一斉発信システム（コミュなび）は、今年度末でシステム変更となった。新たなシステム（パピーナ）のスムーズな活用が課題である。今後は、年2回に留まらず、月1回実施している避難訓練の中で、保護者と連携し、的確に情報伝達できる訓練を取り入れたい。

防犯対策として、警察署の協力のもと、不審者侵入を想定した訓練を実施した。子どもたちと自分自身の身を守る訓練を今後も実施したい。

不適切保育は、社会問題化する中で、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて、個々が日ごろの保育を振り返る機会をもち、個々の気づきを職員間で共有した。

研修への参加及び伝達講習により、職員の専門職としての意識改革に努めた。公開保育は、5歳児クラスと3歳児クラスで実施し、そこには行政や他園の保育士が参加し、意見交換や討議を行い保育の質の向上を図った。

【園児入園状況と園児数（定員 100 名）】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0 歳児	1	1	1	1	1	2	5	9	9	12	12	12
1 歳児	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13
2 歳児	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17
3 歳児	16	16	16	16	15	14	14	14	14	14	14	14
4 歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	18
5 歳児	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17
合計	82	82	82	81	80	79	82	87	87	90	90	91

【保育日数】

土曜日（7:30～19:00）を土曜登園として実施しており、実質の休日は日曜・祝日および年末年始(12/29～1/3)である。

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
日数	25	24	25	26	25	24	26	23	23	24	22	25	292

【主な行事報告】

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4 月 1 日（火）	第 24 回入園式・始園式	12 月 5 日（金）	お餅つき
4 月 12 日（土）	親子遠足	12 月 19 日（金）	クリスマス会
5 月 10 日（土）	こいのぼり参観日	12 月 23 日（火）	防犯教室
6 月 25 日（水）	プール開き 神事	1 月 19 日（月）	マラソン週間
7 月 12 日（土）	夕涼み会	～23 日（金）	
7 月 25 日（金）	年長 野外活動(仁淀川)	1 月 26 日（月）	防犯教室
8 月 19 日（火）	総合避難訓練	2 月 3 日（火）	節分集会
9 月 6 日（土）	なかよし参観日	2 月 21 日（土）	第 24 回発表会
10 月 11 日（土）	第 24 回運動会	3 月 4 日（水）	年長児 交通安全教室
11 月 7 日（金）	秋の遠足	3 月 6 日（金）	お別れ遠足
11 月 8 日（土）	南ヶ丘文化祭参加	3 月 19 日（金）	修了式・お別れ会
11 月 26 日（水）	交通安全教室	3 月 21 日（土）	第 24 回卒園式
12 月 4 日（木）	木曜市	3 月 26 日（木）	総合避難訓練

毎月一誕生会、避難訓練、お点前（年長）、英語で遊ぼう（幼児組）、まなびタイム（年中・年長）

【保幼小架け橋プログラムの交流】

- ・1小5園交流会・・・10/23（木）、11/21（金）
- ・児童福祉施設5園交流会・・・11/10（月）
- ・公開保育・・・7/30（木）うららか保育園、8/27（木）春野平和保育園、2/12（木）春野中央保育園
- ・一日入学・・・1/22（木）

【保健関係】

内 容	実 施 日
尿検査	幼児組 4月9日（水）
内科健診	春季－5月22日（木） 秋季－10月24日（木）
歯科健診	春季－6月18日（水） 秋季－11月12日（水）
視力検査	幼児組 11月25日（火）、26日（水）12月3日（水）、5日（金）

【体験学習・保育実習等受け入れ状況】

学 校 名	月 日	人数
高知中央高等学校衛生看護専攻科 小児看護実習	5月8日～5月14日 6月26日～7月2日	7名
高知県立春野高等学校 インターンシップ	7月28日～30日	2名
高知福祉専門学校 こども福祉学科 保育実習Ⅱ	11月10日～11月22日	1名

〔2〕 うららか保育園 特別事業関連

活動報告

子育て家庭のニーズに応じ、「延長保育」「一時保育」「子育て支援センター」「病後児保育」「体調不良児対応型保育」を実施し、育児の不安解消や負担軽減につとめた。

（1）延長保育事業

補助金対象外のため、利用料金（2,000 円/月）の集金収益により実施した。これまでは、就労による利用が主であったが、最近では、育児休暇による短時間保育の家庭が利用するケースが増えている。月平均、就労による利用が2名、短時間保育からの時間延長の利用が2名あった。

（２）一時保育（クローバー）

５か月から受け入れ可能な事業所がないため、利用の問い合わせが多く、０歳児の登録利用が８割を占めている。子育て支援センター「うららかなかよし広場」から登録利用につながるケースが多い。

育児休暇の取得率の増加から、０歳の受け入れにおいては、手厚い保育が必要となるため、一日の利用人数を制限せざるを得ない。利用の希望が集中した日は、人数調整が必要で希望に添った受け入れができないことがあった。ニーズに応じた受け入れができる体制の整備が課題となった。

利用理由の多くは、保護者のリフレッシュで、他に、出産や断続的・短期的就労による利用もあった。

【利用状況】

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
利用 延人数	31	31	47	26	29	24	49	29	42	43	42	50
平均 利用数	1.5	1.6	2.2	1.2	1.9	1.2	2.2	1.6	2.1	2.3	2.3	2.3

（３）子育て支援センター「うららかなかよし広場」

育児講座は、子どもの健康や発達に関する内容から、保護者の興味的なリラクゼーション、創作、調理などを計画・実施した。また、小学生のいる家庭から長期休暇中に保護者と小学生と一緒に来所できるイベントの要望があり、夏休みの期間に交流会を実施した。いずれも好評だった。

今年度、新たな取り組みとして、ピアサポーターが経験に基づいて利用者に寄り添い活動する時間をつくった。その結果、顔なじみの関係が築け、リピーターの利用が増えた。

今後、新規利用者が気軽に来所できる環境づくりと情報発信をしていきたい。

なかよし広場の様子は、日々Instagramにアップしている。現在のフォロワー数は503人で、昨年度より80人増えている。今後、活動内容のアップ方法を工夫し、来所につなげたい。

【利用状況】

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
利用 延人数	68	61	85	78	73	74	84	65	66	44	49	82
平均 利用数	3.2	2.9	4.3	3.5	3.7	3.9	3.8	3.3	3.3	2.3	2.7	4.1

【育児講座等の実施】

月	内 容
4 月	ベビーマッサージ 離乳食教室
5 月	お昼寝アート 顔ヨガ
6 月	ママと子のタッチケア 育児相談（助産師）
7 月	七夕手形アート アロマワックスバー作り
8 月	水遊び はははのはなし(歯科衛生士) 親子でクッキング
9 月	育児相談（保健師） スクラップブック作り
10 月	防災セミナー ハロウィン製作・フォト
11 月	離乳食教室(栄養士) クリスマスリース作り
12 月	しめ縄作り クリスマス会
1 月	育児相談会(保健師) セルフマッサージ
2 月	節分集会 蒸しパン作り
3 月	春の遠足 バランスボール体験

・その他 よちよちランド（2 か月毎） 看護師による身体測定（毎月）

（４）病児、病後児保育事業（ラベンダー）

これまでは、風邪症候群による利用が最も多かったが、10 月中旬から 12 月にかけてインフルエンザウイルス A 型感染症が、1 月から 3 月にかけてインフルエンザウイルス B 型感染症が流行し、インフルエンザウイルス感染症により利用が全体の 4 割を超え、利用者数も増加した。また、骨折による利用が 1 件あった。

【利用状況】

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用 延人数	10	14	19	11	6	16	30	18	21	17	29	17	208

【疾患別割合】

インフルエンザウイルス感染症（A 型・B 型）	44%
風邪症候群（気管支炎、咽頭炎、上気道炎等）	34%
感染性胃腸炎	7%
R S ウイルス感染症	3%
水痘	3%
マイコプラズマ肺炎	3%
その他（流行性耳下腺炎、百日咳、溶連菌感染症、骨折等）	6%

（５）体調不良児対応型病児保育事業（スイトピー）

保育中の急な発熱や体調不良による利用が主となる。就労により、連絡直後の迎えが困難な保護者が多く、迎えまで園児の観察、安静の保持を行うことにより、保護者の安心、負担軽減に努めた。

【利用状況】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用 延人数	10	15	15	8	9	10	16	5	10	32	13	15	158

〔３〕 放課後児童クラブ関連

活動報告

両親共働き等の理由から、児童クラブのニーズは高く、小学校１年生から６年生まで受け入れた。

指導員は、学童支援のあり方をはじめ、感染防止対策や熱中症予防、救急法に関する講習に参加し、児童の健康管理、安全の確保に努めた。

また、月１回定例会を開き、３つの児童クラブの指導員間の情報交換をはかった。各児童クラブの様子を報告するとともに、気になる児童のかかわり方、運営上の悩み、工夫点などを共有し、児童クラブ運営の向上をはかった。

（１）春野東小学校放課後児童クラブ

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	21	22	22	20	21	23	19	21	20	19	21
在籍者数	50	50	50	50	49	49	47	44	44	43	43	42
出席率	81.7	82.5	87.3	79.3	50.3	86.7	81.7	86.4	84.4	73.0	82.3	73.0

（２）春野西小学校放課後児童クラブ

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	21	22	22	20	21	23	19	21	20	19	21
在籍者数	45	46	45	44	44	42	41	42	42	40	40	40
出席率	84.4	82.6	85.8	81.4	54.8	80.0	80.4	81.8	65.8	79.1	78.1	71.7

(3) 春野東小学校南ヶ丘放課後児童クラブ

【利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21	21	22	22	20	21	23	19	21	20	19	21
在籍者数	27	27	26	26	24	23	23	22	22	22	22	21
出席率	79.0	73.0	71.1	71.1	69.4	73.6	77.1	69.6	72.3	71.1	69.6	70.9

[4] 研修参加状況

月	研 修 名(内容)	主催者	参加職種	参加人数
4	第1回乳児保育研修【会場・アーカイブ】	高知市	保育士・看護師	2
	特別支援担当保育士等研修会	高知市	園長・保育士	3
5	高知県保育士会総会	保育士会	園長・保育士	5
	保育者基礎研修Ⅲ期	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(マネージメント)	高知県	保育士	1
	アレルギー対応研修【会場・アーカイブ】	高知市	保育士・看護師 栄養士・調理師	6
	体調不良児対応型保育事業 担当看護師オリエンテーション	高知市	園長・看護師	2
	第1回地域子育て支援センター職員研修交流会	高知市	子育て支援員	1
	人権研修	高知市	保育士	1
	幼児教育研究協議会	高知県	保育士	2
	第34回日本生活科 総合的学習教育学会 全国大会山形大会	山形県	保育士	1
6	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	1
	高知県保育士会研修5	保育士会	保育士	2
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
	第1回地域子育て支援センター研修・交流会	高知市	保育士	1
	プール管理講習(会場・アーカイブ)	高知市	看護師	2
	ミドル保育者フォローアップ研修	高知県	保育士	1
	病児保育事業についての業務連絡及び情報交換会	高知市	看護師	1
	高知市保育所食育研修会	高知市	栄養士・調理員	2
	教育保育施設におけるお薬マニュアル	高知市	看護師	1

	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策Ⅰ)	高知県	保育士	1
7	保育者基礎研修Ⅲ期－2	高知県	保育士	1
	ミドル保育者フォローアップ研修Ⅱ	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(マネージメントⅡ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	高知県	保育士	2
	第2回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知県	保育士 子育て支援員	2
	特別支援加配保育士(D配置)研修	高知市	保育士	1
	高知県保育士会研修2及び園長部会合同研修	保育士会	園長・保育士	2
	保幼小架け橋カリキュラム 公開保育(うららか保育園)	高知県	園長・保育士	14
8	救命講習	高知市	看護師・保育士	3
	「教育・保育施設等における事故防止ガイドライン」 における「事故発生防止(予防)のための取り組み」	高知市	看護師	1
	第3回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知県	子育て支援員	1
	幼児教育研究協議会2期	高知県	保育士	2
	保幼小架け橋カリキュラム 公開保育(へいわ保育園)	高知県	保育士	2
	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応Ⅱ)	高知県	保育士	2
9	乳幼児期・架け橋期の教育・保育とその質の重要性	高知県	保育士	1
	保育者基礎研修Ⅲ期－3	高知県	保育士	1
	地域子育て支援センター施設長研修	高知市	園長	1
	高知県保育士会 研修3	保育士会	保育士	1
	第2回乳児保育研修【会場・アーカイブ】	高知市	保育士	2
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策Ⅲ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援Ⅱ)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応Ⅲ)	高知県	保育士	2
	教育・保育施設における感染症対策	高知市	看護師	2
	公立園長研修	高知市	園長	1
	防犯・不審者対応研修	園内	全職員	17
	キャリアアップ研修(障害児保育・特別支援教育)	高知県	保育士	1
10	体調不良児対応型病児保育事業担当看護師 オリエンテーション	高知市	看護師	1
	キャリアアップ研修(マネジメントⅢ)	高知県	保育士	1
	ミドル保育者フォローアップ研修Ⅲ	高知県	保育士	1
	感染対策研修	園内	保育士・栄養士 調理師	23

			子育て支援員	
11	全国教育・保育研究大会	保育士会	保育士	1
	第 69 回高知県保育研究集会	保育士会	保育士	5
	特別支援担当保育士研修会 (D 配置)	高知市	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援Ⅲ)	高知県	保育士	1
	地域子育て支援センター交流会 中央西圏域	高知県	子育て支援員	1
12	保育所児童保育要録について～理解と書き方～	高知県	保育士	1
	保育者基礎研修Ⅲ期 園内研修	高知市	園長・保育士	14
	人権研修	高知市	保育士	1
	第 2 回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	子育て支援員	1
	高知県保幼小の架け橋プログラムシンポジウム	高知県	園長・保育士	5
1	保育者基礎研修Ⅲ期－4	高知県	保育士	1
	体調不良児対応型保育事業担当看護師研修会	高知市	看護師	1
	保幼小連携・接続に関する研修	高知県	保育士	1
	高知市保幼小連携・接続合同研修	高知市	保育士	1
2	第4回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知県	園長	1
	特別支援加配保育士 (D 配置) 研修	高知市	保育士	1
	特別支援加配保育士 (ABC 配置) 研修	高知市	保育士	1
	ミドル保育者フォローアップ研修	高知県	保育士	1
	高知県保育士会 第3回園長部会	保育士会	園長	1
3	救命講習	園内	保育士・看護師 栄養士・調理師 子育て支援員	27

Ⅲ 公益事業

〔1〕 介護福祉士養成施設 関連

1. 平成福祉専門学校

(1) 教務

本年度の介護福祉士国家試験について、全員合格に向け個別指導や模試を活用した対策等を重ねてきたが、合格率は84.6%、受験者13名のうち11名の合格であった。不合格になった者については、次年度の受験に向けてサポートしていきたい。本年度より「パート合格制度」が取り入れられたが、全パート合格に向けた取り組みを継続していく必要がある。

学習では、継続した感染症対策を講じながら授業を行っている。常勤・非常勤講師に加え、特別講師による体験を交えた学習や、救急法の資格取得など、授業内でより実践的な知識・技術の修得を目指し取り組んだ。

施設実習では、実習開始直前や期間中、新型コロナウイルス感染症が発生し、施設を変更するケースもあったが、法人内外の施設で協力を得ながら実施することができた。学生の中には、施設指導者、巡回教員の指導・面談を重ねた上で、課題の達成ができず再実習となった学生がいる。次回実習での合格に向けた継続した個別指導が必要である。

ボランティア等の校外活動については、施設実習や試験を最優先した上で、感染対策をしながら可能な範囲で参加をした。次年度も幅広い分野での活動に参加し、さらなる思考力・表現力の向上を目指したい。

学生状況については1年生で2名の退学者と1名の休学者がでた。退学者は、本人・家族ともに他分野への進路変更の強い希望があり、意向を尊重した結果となった。休学者1名は体調不良の為、休学をしていたが回復し、令和8年度から復学することとなった。

2年生は、1名が留年することとなった。介護福祉実習における理解度や、積極性等が課題であり、継続した指導が必要である。

学生自治会活動は、感染対策を講じながら校内外で実施し、1、2年生が交流する機会を設けることができた。

【令和7年度 学生数】

月 学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	19	19	19	18	18	18	17	16	16	16	16	16
2年生	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

【卒業生就職状況】

種別	人数
社会福祉法人	10
医療法人	2
株式会社	1
計	13

(2) 学生募集

30名定員に対して19名の入学生を迎えた。延べ135校の高校訪問を行い、体験入学への参加周知や奨学金等の周知を行った。訪問時には、広報活動に加えて、説明会や体験入学へ参加した高校生の様子や個別対応した内容についても報告や説明を行った。

高知県専修学校各種学校連合会や業者の行う説明会では、高知県内の高等学校や高知県内のホテル等で行われ、合計30回実施し、延べ132名の高校生に説明を行った。また、福祉教育授業については、高知県内5校において述べ14回実施した。訪問説明等のほか、SNS等のWEBを活用した周知活動を強化した。

しかし、少子化の影響は年々強く、高校卒業後の進学は、大学進学を主とした構成となっている。県内外を問わず、専門学校では、学生確保の難しい状況となっており、本校についても、翌年度の入学予定者は10名にとどまっている。

(3) 総務

学費や寮費などの納入に関しては、学生の奨学金制度利用状況を個々に把握し、円滑に処理を行うことができた。その他経費については、必要なものを検討し、節約に取り組むことができた。

2. 介護福祉士実務者養成研修

本年度は13名が受講し全員が研修を修了した。県下の福祉施設等へ受講案内を送付し周知に努めたが、施設で働く職員の多くが有資格者になっている状況があり、受講者数は伸び悩んでいる。問い合わせには丁寧に対応し、社会福祉協議会の貸付事業の案内も併せて行うなど、受講者が増加する取り組みが必要である。

3. 高校生就職支援事業（介護初任者研修）

高知県委託である本事業では、訪問型研修として春野高校・城山高校の2校と集合型研修として本校で行う計3校で実施した。また、高知中央高校が行っている事業にも講師として訪問し、計31名の受講者のうち30名が修了。この研修より本年度本校へ進学となった生徒は計4名であったが、高校卒業後、そのまま介護分野への就職を選択する生徒も依然としている。今後も継続して、より多くの受講生の確保と、奨学金制度利用による経済的な負担軽減の方法や、進学の利点についての周知が必要である。